

高教研年報

第 63 号

令和 5 年度

新潟県高等学校教育研究会

令和5年度各部会事業報告

1 国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 地理歴史・公民・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3 数 学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4 理 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5 芸 術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
6 英 語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
7 農 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
8 工 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
9 商 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
10 水 産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
11 家 庭 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
12 保 健 体 育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
13 情 報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
14 生徒指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
15 図 書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
16 視 聴 覚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
17 定 通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
〈研究会一覧〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
令和5年度 理事会（書面審議）録・・・・・・・・	78
令和5年度 活動から・・・・・・・・・・・・・・・・	79
令和5年度 収入支出決算書・・・・・・・・	80
令和5年度 役員・・・・・・・・・・・・・・・・	82
（ 理事・会計監査委員・ 委員・部会幹事および部会会員数・事務局幹事 ）	
新潟県高等学校教育研究会規約・・・・・・・・	85
令和5年度事務局日誌抄・・・・・・・・	89
編集後記 幹事・・・・・・・・・・・・・・・・	90

巻頭言

令和5年度高教研年報の刊行によせて

新潟県高等学校教育研究会会長

(新潟県立新潟南高等学校長)

横 堀 真 弓

新潟県高等学校教育研究会（以下、高教研）は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的として昭和23年(1948年)に設立され、70年以上の永きにわたり本県の後期中等教育に携わる教職員の研究・研修活動の一端を担ってまいりました。

当研究会は今年度も、以下の2つを各部会共通目標として掲げてきました。

- 1 全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力の育成 〈共通性の確保〉
- 2 多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応 〈多様性への対応〉

国語、地理歴史・公民、数学、理科、芸術、英語、農業、工業、商業、水産、家庭科、保健体育、情報、生徒指導、図書、視聴覚、定通の17の部会で精力的に研究・研修活動に取り組みました今年度の成果を、冊子にしました。各部会の取組に改めて感謝申し上げます。

さて、新高等学校学習指導要領の実施も、次年度、全面実施の年を迎えます。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性」をバランス良く育成するため、また、観点別評価を有効に進めていくため、当研究会の各教科等の部会では、授業や評価の改善に係る研究に取り組んできました。特に、コロナ禍において急速に進んだ新しい教育のスタイル、ICTを活用した学習についても重点的に実践研究に取り組んできました。

各学校では、現在、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、授業改善が進められています。当研究会の担う役割は、各部会での研究により、学校の枠を超え、その実践を積み重ね、その成果を広め、共有し合うことにより、各校における指導力の向上、教育課程の改善、教材の開発、評価方法の研究などに還元していただける重要なものであると考えます。

さらに今年度は、新たな教員研修制度の元年であり、教職員自らが、自らの学びを主体的にマネジメントする始まりでありました。教員の学びは生徒の学びと相似形であると言えます。学び続ける教員にとっても「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化させる場として、当研究会の研修が貴重な学びを提供できるものと考えます。これまで以上に多くの方々から当研究会に御参加いただき、互いに高め合い、自らの成長が実感される学びの場が広がっていくことを期待しています。

次年度もこれまで各部会で取り組んでいただいていた学習者主体の学び、深い学びに向けた研修を継続・発展させるとともに、当会が新潟県の高等学校教員による教育研究の場として、益々実り大きいものとなるよう運営してまいりますので、会員の皆様におかれましては、これからも引き続き御協力を賜りますようお願い申し上げます。

国語部会

1 運営委員会

第1回運営委員会は、6月26日（月）に燕中等教育学校において実施しました。内容は令和4年度の事業報告、決算報告、令和5年度の事業計画と全県研究協議会について審議しました。全県研究協議会は対面による参集型として、具体的な実施方法を検討することになりました。12名の運営委員から審議していただき、審議内容が承認されました。（当日欠席した委員は事前の書面審議による承認）

第2回運営委員会は、1月30日（火）に燕中等教育学校において実施しました。令和5年度の事業報告、決算報告、令和6年度の事業計画等について協議し、11名の運営委員から審議していただき、審議内容が承認されました。（当日欠席した委員は事前の書面審議による承認）

2 全県研究協議会準備委員会

- (1) 日時 令和5年11月16日（木）10:00～12:00
- (2) 会場 県立生涯学習推進センター大研修室等
- (3) 内容 全県研究協議会の準備について
- (4) 参加者 国語部会役員等9名

3 全県研究協議会

- (1) 日時 令和5年11月16日（木）13:15～16:00
- (2) 会場 県立生涯学習推進センター大研修室等
- (3) 参加者 43名
- (4) テーマ「新学習指導要領を踏まえた授業づくり～主体的・対話的で深い学びの実践を目指して～」
- (5) 実践発表
佐渡高等学校 西脇 爽気 教諭
「他者の視点に触れる対話的学びの実践」
～小説『鞆』の指導から～
- (6) 指導講評
県立教育センター指導主事 近藤 崇 様
- (7) 講演
講師：新潟大学教育学部教授 堀 竜一 様
「日本近代小説と動物－宮沢賢治の童話、芥川龍之介『河童』、中島敦『山月記』他を読む－」

(8) 研究協議

西脇教諭の実践発表は、生徒が他者の見方を参考にすることで、自身の考えを深めていくことを目指す取組でした。加えて、Jamboardを使用することで生徒同士が意見をスムーズに共有できた様子が伺え、ICTを活用した実践としても参考になることが多く、参加者からもとても参考になった旨の意見が寄せられました。

指導主事の近藤崇様には、協議会運営等に関して助言をいただき、研究協議会当日も指導講評をいただきました。感謝申し上げます。

研究協議会の講演会は、今年度で新潟大学を退官される教育学部の堀竜一教授に講師をお願いすることができました。〈水・変身・動物〉のモチーフに着目し、日本近現代文学のさまざまな作品を読んでみようという趣旨で授業をされている先生は、変身という設定で、読者は人間の境界線なり定義なりを突き詰めて問い返されると説明され、本講演でもその一端を紹介されました。また、学生が自分なりの問いを設定し交流することで、読みが広まり深まり、そして新しい視点が生まれて自分なりの読みを豊かにしていく、という学生の成長の様子もお話いただきました。授業において日々生徒と向き合う私たちにも大変示唆に富んだ内容であり、貴重な講演会となりました。



今回は従来のような対面による形式で実施でき、参加者の中には久闊を叙す様子も見受けられ、充実した時間となったものと思います。今後も会員皆様からご意見をお寄せいただき、今後の活動に活かしていきたいと考えます。

4 刊行物

「国語研究」第70集では、6名の方から寄稿がありました。感謝申し上げますとともに今後のご活躍をご祈念いたします。令和5年度の事業にご理解・ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。

地理歴史・公民部会

1 総会

期 日 令和5年6月30日(金)
会 場 新潟高校視聴覚ホール
議 事 (1) 令和4年度事業報告
(2) 令和4年度決算報告
(3) 令和5年度事業計画
(4) 令和5年度予算計画

2 研究協議会

期 日 令和5年6月30日(金)
会 場 新潟高校視聴覚ホール
発 表 「教科横断型授業の実践～ウクライナ
避難民の方との授業を中心に～」
発表者 湧井 勇記 教諭 (小千谷高校)
講 演 「歴史総合の授業を創るために」
講 師 小川 幸司 様
(長野県伊那弥生ヶ丘高校)
参加者 48名

3 地理研究会・巡検

期 日 令和5年8月18日(金)
会 場 直江津中等教育学校他
当番校 直江津中等教育学校
テーマ 「上越の港・里をめぐる
～世界・未来とのつながり～」
講 師 藤本 博之 教諭 (有恒高校)
参加者 14名



(液状化現象の実験 地すべり資料館にて)

4 公民研究会

期 日 令和5年11月28日(火)
会 場 新潟明訓中学・高等学校
当番校 新津高校
発 表 「SAMR モデルにもとづく『公共』の
授業実践—ICTを活用して—」
発表者 加藤 直樹 教諭 (万代高校)
講 演 「思考力を鍛える『公共』の授業づくり
—問い、教材、単元に着目して—」
講 師 山本 智也 様 (筑波大学附属駒場
中学校・高等学校)
参加者 30名

5 企画委員会

○第1回企画委員会
期 日 令和5年6月30日(金)
会 場 新潟高校
議 事 (総会の議事に同じ)
○第2回企画委員会
期 日 令和6年1月29日(月)
会 場 長岡大手高等学校
議 事 (1) 令和5年度事業報告
(2) 令和5年度決算報告
(3) 令和6年度事業計画

6 刊行物

『地理歴史・公民研究』第62集
(令和6年3月末日発行)

令和5年度も高校地理歴史・公民科の新学習指導要領や大学入学共通テストについて研究を深め、特に新科目の歴史総合・公共の授業創りについて参加された先生方と考えることができました。なお、研究協議会の実践発表は英語との教科横断型授業が主題であったため、高教研英語部会と連携し英語科の先生方にもご案内をさせていただきました。

数 学 部 会

1 全県研究会

(1) 数学教育研究会

期 日 令和5年6月30日(金)

場 所 アトリウム長岡

講 演

演 題 「いろいろな幾何学」

講 師 新潟大学理学部理学科

数学プログラム 助教 折田 龍馬 様

研究発表

テーマ 「大学入学共通テストに向けて」

発表者 三条高等学校 教諭 神崎 直利

参加者 90名

(2) 全県研究協議会

期 日 令和5年10月25日(水)

場 所 柏崎市 市民プラザ

講 演

演 題 「微分方程式の研究動向」

講 師 新潟工科大学

准教授 竹野 茂治 様

研究発表

テーマ 「『数学的な学びを高める工夫』

～数学B『数列 数学的帰納法』

数学Ⅱ『三角関数 加法定理』の

指導をとおして～」

発表者 高田高等学校 教諭 川田 大海

参加者 42名



〔全県研究協議会〕



〔新潟工科大・竹野先生の講演〕

2 地区研究会

・下越地区研究協議会

期 日 令和5年11月30日(木)

場 所 新潟テルサ

講 演

演 題 「数学教育におけるICT利用と
デジタルコンテンツについて」

講 師 明治大学大学院 先端数理科学研
究科 教授 阿原 一志 様

研究発表

テーマ 「ICTを活用した授業実践」

発表者 中条高等学校 教諭 富田 暁

参加者 77名



〔下越地区研究協議会〕



〔明治大・阿原先生の講演〕

3 会議

・代議員会

期 日 令和5年度6月30日(金)

場 所 アトリウム長岡

議 題 (1) 令和4年度事業・決算報告

(2) 令和5年度事業・予算案審議

出席者 90名

4 広報・研究成果の刊行

(1) 令和5年度数学部会会員名簿の作成

(2) 「数学教育研究集録」第62号の刊行

理科部会

1 役員会

【1】第1回役員会

- 1 期 日 令和5年7月18日(火)
- 2 会 場 Web会議
- 3 参加者 26名
- 4 議 題 R4事業報告 決算報告
R5事業計画 予算案
役員改選 その他

【2】第2回役員会

- 1 期 日 令和6年2月1日(木)
- 2 会 場 Web会議
- 3 参加者 21名
- 4 議 題 R4事業報告 決算報告
R5事業計画 予算案
その他

- ② 物理センサの出力アプリ「Phyphox」の紹介と実験での活用例

県立巻高等学校 高野 大介

- ③ アプリ「Phyphox」を用いた授業実践の一例

新潟中央高校 本田 崇

- ④ 概念調査問題を通じた授業の見直し

県立長岡大手高等学校 山本 岳

- ⑤ VBAを利用したRunge-Kutta法による常微分方程式の解法の紹介

県立国際情報高等学校 遠藤 浩

指導助言：県立燕中等教育学校

教頭 加藤 朋之

指導助言：県立燕中等教育学校

教頭 加藤 朋之

2 研究会

【1】物理教育研究会

- 1 期 日 令和5年11月21日(木)
- 2 会 場 新潟県立新潟江南高等学校
- 3 参加者 20名
- 4 講 演 (オンライン)
「重イオン加速器で探る原子核」
新潟大学理学部 准教授 大坪 隆 様
- 5 研究協議
「物理教育における1人1台端末の活用による授業改善～授業動画の作成とその活用について～」
指導助言：県立教育センター
指導主事 竹石 智史 様
意見提示：県立新発田高等学校 松尾 一穂
座 長：県立新潟西高等学校 渋谷 浩一
- 6 研究発表

- ① シミュレーションソフト「PhET」を用いた探究的な授業実践

県立国際情報高等学校 小林 力



物理教育研究会の様子

【2】化学教育研究会

- 1 期 日 令和5年11月28日(火)
- 2 会 場 長岡市地域交流センター
まちなかキャンパス長岡5F
交流ルーム
- 3 参加者 19名
- 4 研究発表・協議

「遠隔授業で考える理科教育のICT活用について」

新潟翠江高等学校 高見 砂織

「主体的・対話的な学びのためのICT活用」
燕中等教育学校 植木 啓信

5 講演

「理科授業における教師と生徒の関係」
上越教育大学教職大学院
教授 桐生 徹 様

【3】生物教育研究会

- 1 期 日 令和5年12月6日（水）
- 2 会 場 高田高等学校セミナーハウス
「一義館」
- 3 参加者 15名
- 4 講演
「昆虫類の初期分岐と陸域環境への適応ー比較発生学の視点からー」
筑波大学生命環境系
山岳科学センター菅平高原実験所
特命教授 町田 龍一郎 様
- 5 研究発表・協議
「理科『生物』のとりくみ」
燕中等教育学校 間島 絵里子

【4】地学教育研究会

- 1 期 日 令和5年10月10日（火）
- 2 会 場 新潟向陽高等学校 会議室
- 3 参加者 20名
- 4 講演
「ヒトの体にみる5億年の物語」
神奈川県立生命の星・地球博物館
学芸部次席・主任学芸員 大島 光春 様
- 5 協議
「ICT活用の現状と課題」



地学教育研究会の様子

芸術部会

1 総会・授業見学

・施設見学・研究協議会

期 日：令和5年6月26日（月）

会 場：見附市中央公民館
創進学園高等学校

（1）総会〈見附市中央公民館〉

議 事

- 1 令和4年度事業報告
- 2 令和4年度決算報告
- 3 令和5年度役員案、会員数
- 4 令和5年度事業計画案
- 5 令和5年度予算案
- 6 その他

（2）授業見学・施設見学〈創進学園高等学校〉

授業「素描」見学
及び施設見学

（3）芸術科研究協議会・分科会

〈見附市中央公民館〉

2 各科目研修会・研究協議

■音楽科研修会・研究協議

期 日：令和5年12月15日（金）

会 場：県立三条東高等学校

講 師：相澤 直人 氏（指揮者・作曲家）

内 容：講師による参加者への講習

協議・情報交換など

①各校の歌唱分野の授業実践について

②観点別評価について

③次年度の研究テーマについて

参加者：12名

音楽科の研修会・研究協議は、令和元年度以来4年ぶりに開催することができた。

講師の相澤直人氏には、平成30年、令和元年度に県高等学校文化連盟合唱専門部演奏会の講師として、各校の演奏への講評や参加者全員による合唱の指導などをしていただいた経緯がある。

今回の研修会では、日頃、通常の学校の授業で行われている歌唱の活動について、相澤氏が生徒にどのような指導をされるのかを聴講するという内容で企画したが、当日モデルクラスが学級閉鎖となったため、内容を一部変更し実施した。

モデルクラス生徒への歌唱レッスンを聴講する予定となっていた時間も参加教員向けの講習となったが、大変充実した内容であった。題材曲「ぜんぶ～卒業式バージョン～」

（作詩：さくらももこ 作曲：相澤直人）を用い、発声や音楽表現において大事な要素や、授業などで生徒へどのように声をかけたり指示したりしていくかなどを楽しく分かりやすくご説明いただき、講習の終わりには、相澤氏の指揮で参加者全員が合唱した。



協議・情報交換では、各校の歌唱分野の授業実践について、参加者それぞれが取り組んでいる内容を知ることができた。授業時間や選択生徒の人数、男女比など制限がある中でも、活動の効果を上げるための様々な工夫をされていると改めて感じるとともに、自校でも今後に試すことができるのではないかと思います。

次年度の研究テーマについて検討する中で、ICTを活用した授業について、中学校と高等学校で活用状況にかなり差が開い

ているという情報があり、中学校音楽科におけるICTを活用した授業実践を見学できる機会があればという要望が上がった。

企画や連絡調整など難しい面が多々あると考えられるが、次年度の実現に向けて関係機関と協力しながら、最大限努力していきたい。

■美術科研修会・研究協議

(1) 第60回全高美工研2023宮崎大会

期 日：令和5年11月7日(火)・8日(水)

会 場：宮崎市民プラザ

内 容：都道府県代表者会議

第2分科会発表

県立見附高等学校 田中 幸男 教諭

参加者：2名現地、3名オンライン

7日の都道府県代表者会議において、新潟大会の概要を説明した。2024年度は本部大会として、一都三県が協力し、東京を会場に、「持続可能な研究会のあり方」をテーマに参集型で開催される。

8日の分科会は一会場で第1、第2分科会が続けて開催された。第2分科会「生活や社会とつながる美術、工芸教育とは」において、県立見附高等学校 田中 幸男教諭が発表した。

世界文化遺産にも認定されている越後上布、小千谷縮、その生産は冬、雪に閉ざされる魚野川水系、千曲川水系で冬場を中心に行われ、現在では希少な生産物となっている。現在でも豪雪地では時に「不要不急の外出を控えてください」というほどの大雪で交通が遮断される。ここ数年多く耳にしたフレーズでもある。昨年度やっと一部公開がかなった文化祭の開会式で全校生徒が体育館に会することができ、その場を飾るために大型のろうけつ染めを共同で制作し、体育館に飾る活動を発表した。感染症の蔓延による閉塞感、自然災害による閉塞感、造

形作品はそれらを少しでも打破することができるのではないかという試みである。今後も地域の歴史、産業などから教材研究を進める必要性について伝えることができたのではないかと考えている。



(2) 2025新潟大会実行委員会

期 日：①令和5年8月21日(月)

②令和5年12月13日(水)

会 場：県立見附高等学校

内 容：①・Office365の活用について
・新潟大会0次案内について
・役割分担について
・今後の予定
・その他
②・宮崎大会報告
・0次案内の内容検討
・新潟大会の運営について
・各部より

■書道科研修会・研究協議

期 日：令和5年8月17日(木)

会 場：県立新潟高等学校(発着)

新潟市・良寛書所蔵個人宅

出雲崎町・良寛記念館 ほか

長岡市和島・はちすば通り ほか

内 容：＜鑑賞＞

「新潟・出雲崎・和島

良寛の書を巡るバスツアー」

講 師：小島正芳 氏

（全国良寛会会長、

元三条高等学校学校長）

参加者：11 名

【目的】

- ①良寛の故郷で、良寛書真跡を鑑賞する。
- ②良寛の生き方、考え方に触れる。
- ③本県の価値ある芸術文化を伝承するため、知見を広げる。

【ツアー行程】

- 8:30 県立新潟高等学校集合
※会津八一書石碑、扁額等を鑑賞
- 9:00 県立新潟高等学校出発
- 10:00 新潟市・良寛書所蔵個人宅
「いろは」「一二三」真蹟等を鑑賞
NHK「美の壺」視聴解説
仙城院拝観
- 12:30 出雲崎町（昼食）
良寛堂（生誕の地）拝観
良寛記念館「天上大風」鑑賞
- 15:30 長岡市和島
はちすば通り散策
隆泉寺（終焉の地）拝観
- 17:00 県立新潟高等学校帰着

新学習指導要領において、鑑賞指導が一層重視され、これに対応した授業の展開が求められることとなった。授業を担当する私たちが、率先して価値ある作品を鑑賞し審美眼を身に付けることが重要であり、その体験を通し、より深い鑑賞教育が可能になると考える。

今回は、本県の偉人、良寛の真蹟を所蔵する方のご厚意をいただき、そのご縁から、全国良寛会会長であり元三条高等学校学校長としてお勤めであった小島正芳氏にツアーのご案内を快諾いただいたことから、本研修会が実現の運びとなった。実際に良寛のふるさと

を訪れ、そこでしか見ることのできない景色を生徒に伝えたい、教員として本県の芸術振興発展を図りたいとの思いから、企画した研修である。小島正芳氏は良寛研究の第一人者であり、一緒にバスで巡りながら、懇切なご指導をいただけることはまたとない機会であった。また、ツアー行程は小島氏のご教示により計画したものである。

また、高教研芸術部会会員以外の教員や他教科の教員へも広く案内したところ、参加希望があり、本県の価値ある芸術文化や歴史文化について考える機会を共有できたことは大変有意義であった。

当日は、まず新潟高等学校に集合し、“番外編”として校長室に掲げられた会津八一の扁額2つ、堀口大学の扁額1つ、玄関前にある会津八一の石碑について、小島氏から解説いただきながら鑑賞した。

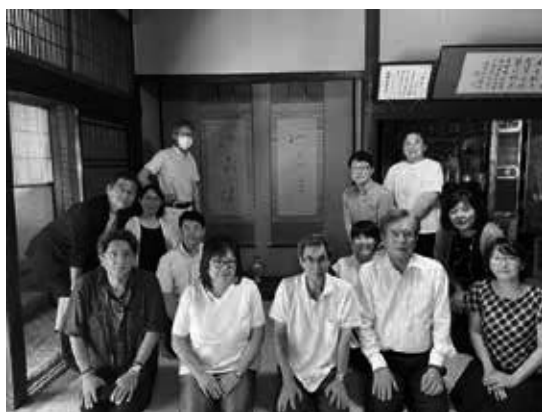


【新潟高等学校・會津八一石碑】

バスが出発し、小堺部長による開会の挨拶があり、小島氏による良寛についての様々なエピソード紹介をしていただきながら、市内の良寛書所蔵個人宅を目指した。

個人宅では、NHK美の壺「良寛」の録画を視聴した後、当主が「いろは」「一二三」の掛け軸を桐箱から一つ一つ取り出され、私たちが間近で観ることができるように畳に直置きしてくださった。これには大変驚いた。あまりの至近距離での鑑賞に、鳥肌が立つほどであった。「いろは」「一二三」は、教科書に

図版が掲載されることが多いが、美術館等ではガラス越しにしか観ることができない名品である。小島氏でさえ、所蔵個人宅で、この「いろは」「一二三」真蹟を観るのは初めてだという。それを、惜しげもなく、畳に直置きした状態で観ることができたのである。この書は、良寛が村人から「自分たちでも読める文字書いてください」と頼まれ、むしろの上で書いたのだという。「ろ」の字には、その跡がみえた。柔らかさのある中にも張りがあり、やさしさと強さを感じるものであった。当主は、床の間へも掛けてくださり、しばらく鑑賞させていただいたり、写真を撮らせていただいたりした。



【新潟・個人宅・「いろは」「一二三」】



午後からは出雲崎の良寛堂（生誕の地）を車窓から拝観し、良寛記念館を訪れた。より真蹟に近い複製であるという「天上大風」等を鑑賞した後、和島へ移動し、はちすば通散策、隆泉寺（終焉の地）にて良寛の墓に手を合わせた。散策中に良寛が好きだったという太鼓の音が聞こえ、良寛の過ごした日々を追体験しているかのような気になった。大変有意義な夏のひとときであった。



【隆泉寺】



【隆泉寺・良寛禅師遷化墓】

英 語 部 会

1 研修会

今年度は、昨年度と同様に、オンラインで夏季研修会を実施した。秋季の全県英語科研究協議会はオンラインと対面のハイブリッド形式で実施したが、対面式での研究協議会は令和元年 11 月以来 4 年ぶりであった。対面参加型での研修会の利点を改めて感じることで、次年度の開催形式も工夫していきたい。

1) 夏季研修会

①実施日

8 月 21 日 (月) 13:30～16:30

②参加者

22 名

③実践発表

新潟県立三条高等学校 教諭 谷川美雪

④内容

三条高等学校の新潟県 WWL コンソーシアム構築支援事業における「学校設定科目・グローバル探究」の指導計画と評価の実践について、谷川教諭が紹介した。その後、谷川教諭の発表を踏まえ「教科横断的な学び」と「評価」をテーマとしてグループ協議を行った。参加者各校における生徒のコミュニケーションスキルや課題を探究し解決する力を伸ばす上で工夫している点だけでなく、探究学習推進における校内体制の整備なども共有することができ、参加者は自校の実践に生かすことの出来る実りのある研究協議ができたのではないかと考える。

2) 全県研究協議会

①実施日

11 月 17 日 (金) 10:00～16:00

②参加者

60 名

③講師

鹿児島県総合教育センター 教科教育研修課 高校教育研修係長 有嶋宏一 先生

④講演テーマ

『指導と評価の一体化を目指した単元デザインーわくわく授業を作る 5 つのスパイスー』

⑤内容

午前の講演では有嶋先生から、単元デザインとは何か、をテーマとして「どんな授業を考えるか」、「どのように生徒を評価するか」、「やりとりの Design を考える上での留意点」等について具体的な実践例も交えながら指導をいただいた。生成 AI の活用についても、とても参考になる活用例等を教示いただき、参加者が自校でもすぐに活用したくなるような工夫や実践にあふれた素晴らしい講演であった。

午後のグループ協議においては具体的な教材を用いて、生徒を単元目標到達へと導く授業デザインを各グループが作成し発表した。グループ協議においても参加者の疑問や質問に有嶋先生が的確かつ丁寧に対応してくださり、一日を通じて参加者が多くの気づきや学びを得られる大変充実した研修会だった。

オンラインと対面のハイブリッド形式での協議会であったが参加者 60 名 (オンライン 28 名、対面 32 名) にとどまったことが反省点であり次年度は参加者の増加に向けた工夫が必要である。

2 刊行物

「高教研英語部会誌 第 68 号」を刊行。

(内容)・研修会報告

・実践報告

・その他

(文責 長谷川 誠)

農 業 部 会

1 令和5年度

新潟県高等学校農業教育研究大会
新潟県立高田農業高等学校

【大会スローガン】

「生徒の夢を創造し、実現する農業教育の推進」

(1) 目 的

新しい時代に対応した農業教育の実現に向けて、本県の農業及び農業教育が直面する課題について研究協議を行い、教職員の資質・能力の向上と農業・農業教育の発展・振興に資する。

(2) 日 程

10:30～11:00 受付

11:00～11:20 開会式

11:20～12:00 農場協会総会

12:00～13:00 昼食休憩

13:00～14:30 研究発表および研究協議

1) 「地域に開かれた農業教育について」

県立新発田農業高等学校

教諭 二瓶 武 様

2) 「令和5年度

学校農業クラブ指導者養成講座報告」

県立長岡農業高等学校

教諭 若山 起哉 様

14:50～16:20 講演会

演題「米どころ新潟 バイオ戦略」

長岡技術科学大学 教授 小笠原 渉 様

16:30～16:50 指導講評

新潟県教育庁高等学校教育課指導第2係

指導主事 榎田 善衛 様

16:50～17:00 閉会式

(3) 講演会

演題「米どころ新潟 バイオ戦略」

長岡技術科学大学 教授 小笠原 渉 様

要旨

- ・基本的に新潟全体に対して問題意識として「魅力がない、働く場所がない」と感じている。
- ・世界的にバイオの社会にシフトしていてその市場は非常に大きい。
- ・講演会の後、ネットワークとパッケージを作っていくのが非常に大事になる。
- ・長岡のネットワークや世界的に有名な人たちとの経験を学生・一般の方に広めてきた。
- ・世界に発信すると、感度の良い方々は意外と認知してくれる。
- ・発酵の文化のある長岡にはお金を生み出すポテンシャルがあり、それがなければ産業が生まれない。
- ・資源循環を窒素で考えると、堆肥などで循環できるのが国内は31%だが現状でも長岡は57%あり、長岡の資源を活用し80%に高め、かつ高品質にしようと提案している。
- ・米菓業者から出る洗米水を使って発酵する堆肥づくりの研究を行っている。
- ・シンプルに言えば土の微生物を活用し、田んぼ区画一個一個をある程度コントロールできる時代はこの5年で来ると思っている。そこに入れる微生物、堆肥を一緒に作ってきたい。
- ・南魚沼は若い人の農家で1億円プレイヤーという人もいるので、首都圏で発信していきたい。
- ・農業高校の皆さんが各地域でそれを理解して、例えば「フランスのボルドーといったら赤ワインだよね。そこで農薬撒いたらみんなに迷惑になるよね。」という状態を新潟で作れるかどうかポイントである。
- ・幼稚園の頃から小学校、中学校、高校と、



しつこく伝えていくのが私たちの責任である。

- ・高校あるいは小学校、中学校と一緒にやっていけたらいいと思っている。

(4) 研究発表および研究協議

1) 地域に開かれた農業教育について

新潟県立新発田農業高等学校

教諭 二瓶 武

要旨

- ・本校は地域に開かれた学校、地域とともに歩む学校として活動してきた。
- ・施肥・農薬の使用状況を含む栽培履歴のホームページでの公開、ブログを用いた作業内容の発信などの外部への情報発信。
- ・老舗百貨店で米のカタログ販売、各種イベントでの販売、など。
- ・地域に開かれた農業教育（農業高校の特色を生かした人権教育）にとりくんだ。
- ・成果として、交流活動に参加した生徒においては、様々な他者と触れ合うことで、同じ目線になって相手を理解し、一緒に協働することの大切さを感じたようだ。
- ・今後は交流活動を深めるとともに、交流前の事前指導と交流後の事後指導の充実を図り、生徒の意識の変容を数値化し、さらに地域に開かれた農業教育の推進に取り組んでいきたい。

2) 令和5年度

学校農業クラブ指導者養成講座（報告）

新潟県立長岡農業高等学校

教諭 若山 起哉

要旨

7月に行われた、学校農業クラブ指導者養成講座について報告された。



講義1「新学習指導要領を踏まえた学校農業クラブ活動」

- ・農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成をすることが求められている。
- ・高等学校学習指導要領（農業科）の改訂のポイント

①持続可能で多様な環境に対応した学習の充実

②農業経営のグローバル化や法人化、六次産業化や企業参入等に対応した経営感覚の醸成を図る学習

③安全・安心な食料の持続的な生産と供給に対応した学習の一層の充実

④農業のもつ多面的な特質を学習内容とした地域資源に関する学習の充実

- ・「プロジェクト学習」を関係する科目の導入部分に設定する

- ・プロジェクト学習の実施は、学習効果の向上や自己肯定感の向上という点において大きな効果がある

講義2「学校農業クラブの運営について」

農業鑑定、プロジェクト発表、意見発表、平板測量競技における新実施基準に関する説明とその歴史

研究協議

「プロジェクトから農業教育の可能性にかける～岩手県遠野緑峰高等学校での取り組み～」

講師 前原 達也教諭（岩手県立久慈東高等学校）

- ・プロジェクト学習の到達目標の4点

① 地域農業や産業の活性化

② 農業資源等を活用した商品開発と普及

③ 製品収支分析から農家や産業の所得向上

④ 被災者の復興支援活動（復興教育を推進）

- ・失敗体験や各種大会への積極的な参加を進めていくことで、自信と誇り、思いやり・感謝・謙虚さ、自己肯定感の育成につなげていくことができる（生徒の人づくり）

・講師の前原教諭の指導留意点

班編成は作為的にしない
 研究テーマは地域農業の課題を考える
 誉める・活躍の場面を作る
 部活動との両立は研究を大義名分にしない
 先生自身が熱くなる
 指導者側は黒子・レール作り
 生徒には粘り強く指導する
 発表原稿スライドは生徒の力で作成させる

実践発表についての研究協議

第1分科会

「授業で取り組むプロジェクト学習」

第2分科会

「単位クラブの活性化に向けた工夫」

(5)指導講評

新潟県教育庁高等学校教育課

指導第2係指導主事 榎田 善衛 様

①研究発表1について

平成30年告示の学習指導要領では、「職業に関する各教科の「見方・考え方」を働かせた実践的・体験的な学習活動を通じて、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力の育成を目指して」おり、その資質・能力の一つとして、「職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力」があげられている。まさしく現在は少子高齢化社会への対応が迫られている時代であり、農業体験を通じた連携活動が農業の価値や新たな産業への萌芽となって現れていることを感じる。

②研究発表2について

平成30年告示の学習指導要領には、「農

業に関する各教科・科目にあたっては、(略)学校農業クラブなどの活動を活用して、学習の効果を上げるよう留意すること」と記され、学校農業クラブ活動については、科目「農業と環境」、「課題研究」、「総合実習」に位置づけ、生徒の自発的な活動を進めるために、プロジェクト学習及び学校農業クラブ活動を促進することが示されている。あらためて農業クラブ活動の在り方を再認識する機会になった。

③講演会について

発酵を中核として、「ひと、こと、もの」をつなぐ、プロデュース活動を推進し、地域の活性化に取り組んでいる事例は今後の教育活動を進める上で参考になるものだった。

発表や取組の成果、課題等が明らかになったものと考えている。本日の成果などを各学校に持ち帰り、今後の教育活動の推進に努めていただきたい。

2 令和5年度農業教育課題研究会

新潟県立加茂農林高等学校

(1) テーマ 「探究学習の指導と伴走」

～生徒の成長発達を実現する探究学習の理論と実践～

(2) 目的

令和4年度入学生から新しくなった教育課程に対応し、「探究学習」の基本的な指導の流れや指導者（伴走者）に求められる生徒支援への理解を深めることで、その趣旨を生かし、「課題研究」の取り組みを充実させる。

(3) 日時 令和5年11月29日（水）

13：40～16：30

(4) 会場 新潟県立加茂農林高等学校 会議室

新潟県加茂市神明町 2-15-5

(5) 日程

13：10～13：40 受付

13：40～13：45 開会式

13：45～14：00 日程説明

14 : 00～15 : 00 講演
15 : 00～15 : 20 休憩
15 : 20～16 : 20 研究協議
16 : 20～16 : 30 閉会式

(6)参加者

新発田農業高等学校 2名
長岡農業高等学校 2名
高田農業高等学校 2名
村上桜ヶ丘高等学校 1名
巻総合高等学校 1名
柏崎総合高等学校 1名
十日町総合高等学校 1名
佐渡総合高等学校 1名
加茂農林高等学校 11名

(7) 講 師 Inquiry 合同会社 山本 一輝 様

(8) 内 容

講師よりご講演いただき、事前に回答のあった各校の「総合的な探究の時間」「課題研究」の実施状況と課題についての情報交換を行った。

○イントロダクション

- ・講師自己紹介
- ・自分の考えを紙に書いてまとめた後、周囲と意見交換する活動

○講演内容（抜粋）

- ・深い学びには、学び手が対象に「価値や目的」「目標」を見いだすことが必要。
- ・学習者自身が、なぜ探究学習を行うのか納得した上で自ら学習に向かう。
- ・知識は与えられる物ではなく自ら作っていくという、構成主義的な考え方が大事。
- ・大人にも、指導者よりもコーチやファシリテータ、支援者のような立場での関わりが求められる。
- ・探究学習では、課題から学ぶのではなく、課題設定の段階から生徒が課題を自分で設定して、自分のキャリア、あり方、解き方を考え、具体的に解決していく。
- ・探究学習＝課題研究ではない。

（先生方が一から十まで設えた題材を学

ぶ、先輩から脈々と引き継いでやっているような課題をやっていくのは、本当に生徒達がやりたい事をしているのかということそれは少し違う）

- ・学習モデルは4種類ある。
（「学習転移モデル」「経験学習モデル」「批判的学習モデル」「正統的周辺参加型モデル」）
- ・探究学習は、支援者の学習モデルの認識にズレがある場合、困難になる。
- ・まずは同じ勤務校の先生方で学習モデルのイメージ、学習観の確認を。
- ・4種類の学習モデルの中では「経験学習モデル」が一番探究学習に近く、そのベースにピアジェの「構成主義」がある。
- ・「構成主義」から生まれたジョン・デューイのプラグマティズム（実用主義、行為主義）では、「人は経験から直接学ぶのではなく、経験を振り返ったとき初めて学ぶ」とされる。
- ・経験の意味づけ位置づけをしたり、違う角度で捉えなおしたりすることで「分かっていく」。
- ・「分かっていく」営みが自分自身を構築する。
- ・生きた知識は使ってみて自分に結びつけてはじめて学びとして生きる。
- ・実際に手を動かすことで先生方が教えた普遍的な知識と、生徒が元々持っている経験的な知識がくっついて使えるようになる。
- ・学びが自立的に進められるには、生徒側にも責任があるのだという自覚が必要。「自分達にも学びの責任があるのだ」と気付かせる。
- ・地域の環境要因が揃ってないと、生徒の中で学びが深まらない。
- ・「学びの土壌」を築くため、大人のあり方もチェックすること。
- ・学びの土壌肥沃化に向けて、支援者が学び成長し続けることが大事。
- ・4つの関わり方

コーチング：問いかけて「見方」「考え方」を示唆する。

フィードバック：真剣に向き合い伝える。

リフレクション：やりっぱなしにせず振り返り、活動に意味付けして促していく。

コーディネート：出会い、資源等の調整を支援し成長機会をつくる。

- ・探究学習は人を育てるだけでなく、地域を変えるインパクトを持っている。

○リフレクション

- ・今日の経験を振り返り、対話を通じてまとめを行った。

○研究協議（情報交換）

- ・各校の「総合的な探究の時間」「課題研究」の実施状況と課題について参加者が報告。
- ・講師の山本様への質疑応答。

質問：生徒のモチベーションを喚起するには？

応答：「なぜ探究学習をするのか」生徒みんなで話し合い、自分たちで学ぶ価値を見いだしてもらおう。指導から支援へのパラダイム変換を起こす。話し合うときは、まず自分の考えを書き出してから喋らせると伝わりやすい。

質問：生徒をチーム分けする際の考え方は？

応答：時間的に厳しいのであれば、決まるまで生徒に任せるとも手段。社会ではそういうものかもしれない。うまくいかないことがあったとしても、生徒と先生両方の責任であると考えてる。

質問：実施していくうえで、職員みんなの歩調が合わない。共通認識ができない。関わる人が多くなるほど、スタート時点で「不可能だ」という意見が増える。個人の温度差、力量差が出てしまう。

応答：お互いの考える「探究学習像」・「生徒像」が違うことを前提に、考えを見える化する。

る。先行の成功事例（マイスターハイスクール事業）では、職員が一年かけて何を目指すのかワーキンググループで話し合った。今も定期的に自主勉強会を行っているので、参考にしては。

(9) まとめ

各校の現状と課題を持ち寄り、これからの「総合的な探究の時間」と「課題研究」について考えを深める貴重な機会となった。

イントロダクション・リフレクションの演習および講演を通して、参加者自身が「総合的な探究の時間」や「課題研究」で探究学習を行うことで何を実現していきたいのか、生徒と共に何を目指していきたいのか、そのための課題等を整理することができた。そういった学習観、イメージする学習モデルを職員同士で持ち寄り、共通認識を作っていくことが、充実した探究学習実現への第一歩だと感じた。

工業部会

建築研究会（研修・見学会）

- 1 期 日 令和5年9月27日（水）
- 2 会 場 県立上越総合技術高等学校
CAD実習室
フルサット、斜めの家
- 3 参加校 5校 （16人）
- 4 日 程

10:00～10:20	受 付
10:20～10:30	開会式
10:30～12:00	講 演 中野一敏様
13:30～15:30	現場見学会 (フルサット、斜めの家等)
15:50～	協議・閉会式

5 講義

「変化する社会とともに

新しい建築を考える。」

講師：NAKANO☆DESIGN 一級建築士事務所

中野 一敏 様

上越市内の建築士事務所で活躍されている中野一敏氏より、ご自身が携わった計画を題材に「変化する社会とともに新しい建築を考える。」をテーマに家族と敷地環境から導かれた深層構造を共有しながら進める住宅設計についてご講義いただいた。



講義の様子

6 見学会

「上越妙高駅前 furusatto（フルサット）」

中野一敏氏が企画デザインを行った上越妙高駅西口駅前広場内にあるフルサットというコンテナを利用した複合商業施設の見学を行った。フルサットはテナントが入ったコンテナ群が円弧状に配置され、それぞれのコンテナを地域文化に由来する雁木空間でつながれた平面構成となっており、これからの建築の新しい在り方について勉強になった。



見学の様子

「斜めの家」

日本の現代住宅建築史の中の名作と言われる上越市出身の建築家 渡邊洋治氏が設計した「斜めの家」の見学を行った。斜めの家はその名のとおりに、1階と2階をつなぐスロープの傾きが地面から潜水艦が潜行していくような外観が特徴の建築物であった。



見学の様子

（記・県立上越総合技術高等学校 建築環境科
齊藤 良江）

電気・電子系 見学会および研究会

期 日 令和5年9月29日（金）

会 場 タワー パートナース

セミコンダクター 株式会社

参加者 17名

【はじめに】

今年度は、上越市新井地区でアナログ半導体を中心に製造を行っている タワー パートナース セミコンダクター株式会社 様にご協力いただき、電気電子系見学会および研究会を以下の日程で開催しました。

13:30	～	13:35	開 会
13:35	～	13:55	会社概要説明
13:55	～	14:45	工場内施設見学
14:50	～	15:20	講 演
15:20	～	15:25	質疑応答
15:25	～	15:30	閉 会

【概要説明・施設見学】

会社の沿革、ならびに半導体の製造工程などについて新井地区総括 粉谷 直樹 様よりご説明をいただき、その後2班に分かれて製造施設の見学をさせていただきました。



施設見学の様子

ナノメートルサイズ(髪の毛の数千分の一)の半導体回路を扱う施設ということもあり、製造装置が稼働している場所への立入は厳しく制限されており、アクリル板越しの見学となりましたが、交通系 IC カードに使われている極薄アンテナシートや、IC 基板上の回路を

顕微鏡で見せてもらうなど、今後の教科指導に参考となる貴重な機会をいただきました。

【講演：半導体業界の動向について】

見学後、世界および国内における半導体産業の動向についてご講演をいただきました。



講演の様子

現在、世界最先端のデジタル IC はトランジスタ幅 2 nm で、日本はこの微細化技術において、世界にかなりの遅れを取っていることでした。しかし、アナログ半導体やパワー半導体、および半導体材料分野においては世界的な競争力を維持しており、デジタル IC についても国家戦略として今後の巻き返しを狙っているとのこと説明がありました。また、その後の質疑応答においては、今後の工業教育に期待される人材育成について貴重なご意見をいただきました。

【おわりに】

このたびの見学会開催にあたり、ご多忙にもかかわらずご協力いただきました タワー パートナース セミコンダクター株式会社 の皆様に深く感謝申し上げます。

（記・県立上越総合技術高等学校

電気情報科 田中 秀和）

令和5年度土木研究会

期 日 令和5年9月29日（金）

会 場 県立新発田南高等学校
土木理論実習室

参加者 11名

【はじめに】

UAV技術は建設業だけでなく、農業や防災等、現在幅広い業種に普及しており、UAVの知識・技術は今後必要とされる能力になることが考えられます。そのようなことから、授業や実習等の導入も考えられ、操作に関する講義、講習会は各学校等で開催している現状です。そのため、今回の研究会ではUAV所持後に必要とされる機体登録の方法を教職員が学び、UAV導入後の機体登録手続きの円滑化を図るとともに、生徒への指導に活用できることを目的としました。

【事前準備】

講師は、JUAVACドローンエキスパートアカデミー新潟校様に依頼し、UAV所持後の手続きに関する講義を実施していただきました。UAV飛行時だけでなく各種注意点等を考えた結果、UAV購入時には手続きに関する注意書き等が付属しないこと、手続きをしない機体の飛行が航空法違反になることの認知が低いことなどの実態を踏まえ、講義内容に決定しました。

【実施内容】

講義内容は、①登録が必要となる機体の説明、②アカウントの作成方法、③機体情報の入力、④登録記号の発行、⑤機体への記号の表示という手順で講義を行っていただきました。

①では、どのような機体が登録の対象になるのか、なぜ機体の登録が必要（義務化）になったのかを教えてくださいました。UAV

と聞くと、ドローンをイメージしますが、飛行機型のラジコンも該当（100g以上）することを知ることができました。

②のアカウント作成では、機体登録のページではなく、別に国土交通省のサイトから、登録することが必要となることを知ることができました。

③～⑤では、機体情報入力後に登録記号が発行されますが、多くの方が登録記号発行後登録操作を終わってしまうという注意を聞きました。実際は登録記号発行後、UAV機体の大きさを踏まえ、機体に記号を表記しないと航空法違反になってしまうとのことでした。

【研究会を終えて】

UAVの機体手続きは専用のホームページがありますが、入力内容が多く、複雑だと感じていました。しかし、今回の講義で、入力時の留意点や機体登録後の手続き等を知ることができました。また、講義は農薬散布用の大型UAVの飛行と自動操作も見学や、UAVの他業種の活用方法も知ることができ、大変有意義でした。

【おわりに】

今後のUAV技術には、幅広い可能性があることや、建設業へのより高い興味・関心の向上のために授業・実習の早期導入が必要だと感じています。学校導入後に安全に円滑に使用するためには各種手続きと機体登録を早急に行う必要があるため、このような講義はとても重要だと改めて実感しました。今回の実施にあたり、事前準備と講義内容決定に御協力いただいたJUAVACドローンエキスパートアカデミー新潟校様へ、感謝申し上げます。研究会報告とします。

（記・県立新発田南高等学校

土木工学科 石黒 一馬）

機械・電子機械研究会・見学会

期 日 令和5年11月9日(木)

【見学会】

会 場：新潟県立新潟テクノスクール

参加者：12名

内 容： 初めに県立テクノスクールについて概要を説明していただきました。職業能力開発促進法第16条で規定された職業能力開発校で、事業内容としては人材養成、再就職支援、企業支援を行っている、とのことでした。授業時間数の多さと少人数制の指導により、職業に必要な基礎的な能力の開発および向上の促進に取り組んでいるとのことでした。

その後、授業の様子や施設を見学させていただきました。電気システム科では実際の住宅を模した電気配線について説明していただき、短期課程の溶接科、ビル設備管理科では設備、作業概要を説明していただきました。精密機械加工科では訓練生の皆さんが旋盤作業に取り組んでいる様子を見学させていただきました。自動車整備科では実習に使う自動車、設備を見学させていただきました。また、



写真① 見学会

独自のデュアルシステム訓練を取り入れ、企業で雇用型訓練を実施しているとのことでした。各科とも学校の特長を生かした、丁寧な指導が行われていることが伝わってきました。

【研究会】

会 場：新潟県工業技術総合研究所

参加者：10名

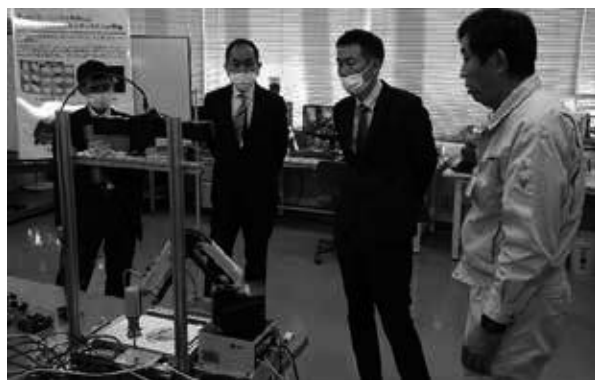
テーマ：「県内産業と工業技術総合研究所のかかわり」

内 容： 初めに、佐藤研究所長様よりご挨拶

いただきました。工業技術総合研究所の業務には研究開発と技術支援があり、最近ロボット、AIなどのデジタル分野の支援が増えているとのことでした。

次に、「県内産業と工業技術総合研究所のかかわり」として、具体的な成果事例を説明していただきました。AI活用成果事例では、上越市の企業と共同研究を行い「廃棄物選別ロボットの開発」として、3Dセンサ・カメラを利用して対象物の位置、姿勢を計算し、種類を判別する装置の開発を行ったなど、説明がありました。

その後、研究所内の施設、装置を見学させていただきました。電気製品の電磁ノイズの影響を調べられる、外来電波の影響を受けない電波暗室や、DX推進技術活用支援事業の「AIを活用したバラ積み部品ピッキングシステムの開発」で製作した、ピッキングロボットを見せていただいたりしました。



写真② 研究会

「県内企業の技術力向上や高付加価値化を図る良きパートナーとして、企業の皆様から信頼され、満足いただける技術振興機関を目指します。」という基本理念のもと、事業に取り組まれていることがよく分かりました。

最後に、本見学会・研究会の開催にご快諾、ご協力いただきました、新潟県立新潟テクノスクール、新潟県工業技術総合研究所の皆様に深く感謝申し上げます。

(記・県立新潟工業高等学校

機械科 小熊 幸成)

工業化学系研究会・見学会

県立長岡工業高等学校 物質工学科
鶴巻 勝弘

【見学会 1】

期 日 令和5年12月1日（金）
会 場 一般財団法人新潟県環境分析
センター

参加者 10名

新潟県環境分析センターは昭和54年に設立され、快適な生活環境を確保するため、環境の測定、分析、調査、さらに予測と評価を行っている。今回、環境衛生に関する多岐にわたる事業活動を説明していただき、検査・分析の実際の現場と多くの分析計測機器を見学した。また、高校生ものづくりコンテスト化学分析部門の試料水の調整を行ってもらっている関係から、その調整方法と真値の求め方について具体的に説明していただいた。

さらに、地球温暖化防止の一環として、エコアクション21の取り組みもお聞きし、とても有意義な見学会となった。今後も環境学習、高校生ものづくりコンテスト、生徒の進路等で連携させていただきたいと強く思った。

ご対応いただいた新潟県環境分析センターの皆様には感謝申し上げます。



【見学会 2】

期 日 令和5年12月1日（金）
会 場 長岡市摂田屋地区
参加者 12名

長岡市の摂田屋地区は昔から醸造文化が栄えた土地で、現在も「味噌」「醤油」「日本酒」の醸造が行われている。今回、地元のガイドさんの案内のもと、あちこちから酒や味

噌などの発酵香が漂ってくるのを感じながら、街を歩いて醸造文化を学んだ。

行程

旧機那サフラン酒本舗米蔵・鋺絵蔵→味噌星六→旧三国街道→竹駒稲荷→越のむらさき→吉乃川「醸蔵」

【研究会】

期 日 令和5年12月1日（金）

会 場 アトリウム長岡

参加者 6名

協議題

（1）ものづくり大会化学分析部門の審査・技術指導等について

審査員の外部派遣について、新潟県環境検査協会事務局に派遣を依頼することを確認した。また、技術指導や安全に関する講師の派遣も可能で、旅費等の確認が必要である。

（2）令和6年度北信越工化研について

令和6年7月31日（水）～8月1日（木）に新潟工業高校北斗会館で行う。事務局校は新潟工業高校で県内各校が協力し、講演は「北越コーポレーション」に依頼済みであることが確認された。

（3）各校のコース決定について

コース決定の状況について、長岡工業高校はスライドで、柏崎工業高校は口頭で説明があった。新潟工業高校は来年度のコースについて最新の学校HPスライドで説明があった。

（4）その他

各校の備品状況

教育課程

観点別評価

実習でのICT活用

各校から協議題について説明、意見交換が行われた。コース決定は各校で工夫して取り組んでおり、課題が少しでも解決できるように、各校の状況を参考に、さらに取り組みが必要だと感じた。

ロボット技術研究協議会及研究発表会

期 日 令和6年1月16日（火）

会 場 長岡市中央公民館（さいわいプラザ）

参加者 77名（生徒56名 教員21名）

今年度は、長岡市中央公民館（さいわいプラザ）を会場として実施しました。

内容は、ものづくり大学三井教授をお招きして講演会、ロボット競技とマイコンカー全国大会報告、各部門の分科会を実施しました。

1 講演会

ものづくり大学 技能工芸学部 三井実教授による、NHK 学生ロボコンの取組についてご講演を頂きました。講演にあたりものづくり大学から、学部3年生で新潟工業高校出身の川村さんをはじめ、3人の学生さんからも発表を頂き、NHK 学生ロボコンの研究過程について様々な取組を紹介して頂きました。

NHK 学生ロボコンは、高校生のロボット競技とは違い、ロボットをただ単に製作するだけではなく、ロボットに必要な要件を満たす製作と同時に、1次・2次ビデオ審査を通過できるクオリティーまで完成度を高める必要があります、その難易度は高校のロボット競技の非ではないと実感しました。実際のNHK 学生ロボコンに出場した機体を以下に示します。

（写真1）



（写真1 NHK 学生ロボコン出場機体）

2 研究発表会

ロボット部門では、今年度福井県で行われた第31回全国高等学校ロボット競技大会に出場した、長岡工業高等学校の取組について発表がなされました。

マイコンカーラリー部門では、今年度長野県で行われたジャパンマイコンカーラリー2024全国大会に出場した、新潟工業高校の取組について発表がなされました。



（写真2 分科会 発表）

3 分科会

分科会は、ロボット・マイコンカーラリーの各部門に分かれて行われました。ロボット部門では生徒約47名が参加し、新潟工業高校、長岡工業高校、新潟県央工業高校が、福井県大会に出場したロボットを持ち込み、それぞれのロボット製作の技術について交流しました。

マイコンカーラリー部門でも、新潟工業高校、柏崎工業高校の生徒約9人ならびに、今年度新採用の工業科教員が技術交流を行い、それぞれ充実した分科会となりました。



（写真3 分科会 マイコンカー）

（記・県立長岡工業高等学校

電気電子工学科 勝又正史）

商 業 部 会

- 1 期 日 令和5年11月24日
- 2 会 場 新潟県立村上桜ヶ丘高等学校会議室
- 3 主 催 新潟県高等学校教育研究会商業部会
- 4 当番校 新潟県立村上桜ヶ丘高等学校
- 5 参加校 8校（14名）
- 6 日 程

受	付	10 : 00～10 : 30
開	会	10 : 30～10 : 40
講	演	会
		10 : 40～11 : 40
フィールドワーク		12 : 45～15 : 30
研	究	発
表		15 : 40～16 : 00
指	導	校
講	評	16 : 00～16 : 10
閉	会	16 : 00～16 : 15

7 講演

演題「鮭・酒・情け」村上のど真ん中「酒」からみる
～村上観光のこれから～

大洋酒造株式会社

代表取締役社長 中山 芳則 氏



(1) 大洋酒造について

① 自己紹介

② 大洋酒造の歴史

村上税務署管内の14軒の造り酒屋が合併し設立される。(昭和20年5月)

中山氏は9代目社長である。

③ 創業理念・企業理念

「大河」幅も広く水量豊かな大きな河

「洋々」水が満ちあふれているさま、物事

の盛んなさま、希望に満ちているさま。

「盛運」栄える運命

創業理念 「和」

より多くの顧客づくり (顧客志向)

より良い商品づくり (品質向上)

信用と親近感づくり (社会的責任)

みんなの生き甲斐づくり (人間性尊重)

企業理念

・村上の米をつくり、酒をつくり、人をつくる

「本物の地酒文化を創造します」

・日本に大洋酒造ありと言われる

「小さくてもキラリと光る酒をつくります」

・働く人たちの夢をつないでいく

「生き甲斐と希望のある会社にします」

④ 日本酒の造り方とその種類

⑤ 日本酒の飲み方

⑥ 大洋酒造の主な特徴

⑦ 紫雲大洋盛について

⑧ 輸出について

・2021年 輸出金額別ランキング

1位中国 2位アメリカ 3位香港

*現在東日本大震災後、中国政府の10都県

輸入禁止により新潟県産の酒は停止中

大洋酒造 輸出先 アメリカ、

オーストラリア、香港

⑨ 酒類業界を巡る状況 これからの取組み

・社会情勢の変化等に適切に対応するとともに、地域創生の実現・推進により密接に関わり、持続的な観光まちづくりと地域の活性化に取り組んで行く。

地域全体が同一の方向を目指すことが重要

「杯で、お互いにつぎ合いながら語り合う

これこそまさに日本酒文化ですよね」

(2) フィールドワーク 12:45~15:30

- ① 藤基神社 <https://fujimotojinja.jp/>
- ② 大洋酒造 <https://www.taiyo-sake.co.jp/>
- ③ 田村酒店 <http://www.tamura-saketen.jp/>
- ④ どまんなか
<https://www.sake3.com/spot/2017>
- ⑤ 千年鮭きっかわ
<https://www.murakamisake.com/>
- ⑥ 黒壁 <https://www.sake3.com/spot/2460>
- ⑦ 九重園 <https://www.kokonoen.com/>



村上市を回り、歴史と文化を肌で感じて頂いた。
「鮭・酒・情け」を感じる時間となりました。

(3) 研究発表 15:40~16:00

新潟県立村上市桜ヶ丘高等学校

教諭 安達恵一

- ・新潟は観光資源が豊富である。
- ・昭和39年新潟国体に向けて、西堀・東堀を埋め立
- ・村上市周辺は、新潟からも車で1時間と好立地
- ・「粟島」「瀬波温泉」「笹川流れ」「村上市内」と観光資源は豊富 加えて米、魚、酒など食も充実
- ・「村上市内」は今まで、民間主体の観光づくりであり、行政は遅れ気味。また、歴史的背景から様々な障壁が存在しており市民も一枚岩ではない。
- ・「民間・行政・学校」の出来ることを考える。

Ex 高校生の作った企画旅行を商品化！大滝観光に商品化してもらい、生徒が実際に引率して村上市内を案内する。

ステップ①~④

- ① 県内観光客を「村上市」に集めその魅力をPRする。
- ② 山形県、宮城県、福島県（秋田県）の小学生修学旅行の誘致をする。

③ 全国から観光客を集める工夫をする。

④ 世界各国からの観光客を集める工夫をする。



毎年、人口が1,000人減少している。急速な過疎化が進んでいる。村上市に若者が定着する魅力ある村づくり。若者が戻ってくる仕事場を村上市に作る必要がある。観光と企業誘致が村上市の将来を左右すると考える。

新たな産業を官民が一体になってつくらなければ

学校の出来ること

- ・行政と民間の橋渡し役
- ・新たな空気を流す事



観光を起爆剤に、若者が定着する町作り！

企業誘致や新たな雇用創造

(4) 指導講評 新潟県教育庁 神蔵紀明 様
新学習指導要領の新科目「観光ビジネス」は、各学校でいよいよ始まる。今回の学びを持ち帰り、更に研修を重ねてより良い科目となる様に、研鑽を積んで欲しい。

水産部会

水産教育研究会

(1) 期 日

令和5年12月4日(月)

(2) 会 場

新潟県立海洋高等学校 大会議室

(3) 事例検討「地域特産品化を目指したキャビア生産に関する研究～DNA分析による雌雄判別法の開発～」

新潟県立海洋高等学校
教諭 岡部 泰基

海洋高校資源育成コースでは、産学連携・高大連携事業として、7年間にわたってチョウザメ養殖について飼育に関する研究、キャビアの商品化に向けた研究の成果について発表した。

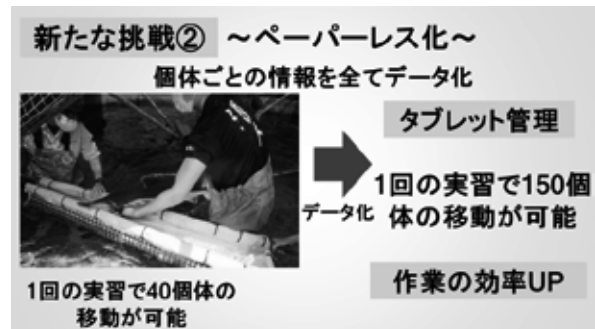
この事業の課題の一つがチョウザメの雌雄判別の正確性であった。キャビア生産においては、チョウザメ



の雌雄判別が重要であるが、外部形態による雌雄判別は困難で、従来は魚体の腹を切開し目視確認する方法であった。しかし、魚が暴れると慣れていない生徒がけがをするリスクがあること、雌雄の判別に熟練を要することから実習で行うには難易度が高かった。

そこで、DNA分析の手法を利用して、雄のみが持つ遺伝子、雌のみが持つ遺伝子を見分けることで雌雄判別を行う研究開発に課題研究の中で取り組んだ。そして、成熟前の一年魚でも時期を問わずに雌雄判別の手法を確立することができた。この一連の取り組みでは、体験的、実践的な学習によって生物などの科目で学ぶDNAの基礎やPCR法、水産の各科目で学ぶ魚類の養殖、機器の扱いなどの知識や原理の定着を生徒へ促すことができた。また、PITタグ(マイクロチップ)を使った個体管理と個体ごとの情報のデータ化といったICT活用の実践、雄チ

ョウザメ肉の出荷、販売、キャビア製造といった他業種、他分野に関わる経験をすることもできた。水産に携わるための基本的な知識・技術の学習や横断的な学習により、生徒の地域課題を意欲的に解決する態度の醸成や深い学び、実社会との関連への実感に繋がる機会となった。



(4) 研究発表「持続可能なサケ増殖事業に関する調査研究～発眼卵放流の実用化に向けて～」

新潟県立海洋高等学校
教諭 増田 慎之介

サケ増殖事業における発眼卵放流の手法開

発について発表した。海洋高校や糸魚川の地域にとってサケは重要な資源となっている。現在、サケ増殖は、サ

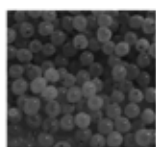


ケの採捕尾数の低下とそれに伴うイクラの売上げ減少による収入減、組合員の高齢化と後継者不足、ウライ(やな)設置費捻出の負担、ふ化場の老朽化などといったサケ資源の維持ができなくなりがねないような状況が地域の課題となっている。そこで、省コストな増殖手法の一つとしてヤマメやイワナ等の溪流魚で以

前から行われてきた「発眼卵放流」をサケ増殖で実用化させる研究を行い、持続可能な増殖事業の展開に資する実証に取り組んだ。「発眼卵放流」では、仔魚飼育期以降を自然河川に委ねることで、ふ化場での飼育期間を従来の約 2/5 に短縮できるため、餌代や人件費等のコスト削減につなげることが期待できる。

令和3年12月に、試験的な「発眼卵放流」を実施し、続いて令和4年度には、今後の実用化に向け規模を大幅に拡大して25万粒以上の発眼卵放流を行った。発眼卵放流によるコスト削減効果があるか、試算したところ、現在行われているサケ稚魚放流と同規模の200万粒の発眼卵放流を行ったとすると、人件費や管理費など合わせて約63万円のコスト削減が見込めるという結果となった。また、生残率についても、ふ化場と比べて同等あるいは高い数値となり、発眼卵放流の実用性の高さを確認することができた。発眼卵の放流作業には、人手を多く必要とすることが課題であった。この課題に対しては、放流作業に必要な人手を確保するため地域住民と協働した「放流イベント」を企画・実施することを構想している。また今後は、遡上尾数などをモニタリングし、発眼卵放流の効果を検証していきたい。生徒にとっては、令和3年にテーマを設定し、基本を体得しながら、規模を拡大すると今度は人手が必要になるという、このようなサイクルができて地域の実社会の課題を扱うという学習ができてきたと感じている。指導の中では、生徒の意欲、主体性を大切にするとということと、IOTやICTを活用した省力化、効率化を意識して行った。

期待される「発眼卵放流」



サケの発眼卵
卵内に眼が確認される発生段階のもの。
卵膜が固く、乾燥や衝撃にも強いので、
取り扱いが容易で河床に埋設しやすい。

ヤマメやイワナ等の
渓流魚で行われている

仔魚飼育以降を自然河川に委ねることから、ふ化場での飼育期間を従来の約2/5に短縮でき、野生味のあるサケが育つ。

⇒餌代や人件費等のコストが削減できる

（５）事例発表「最後の一滴」の開発から事業化へ」

新潟県立海洋高等学校

マイスター・ハイスクール CEO

松本 将史

サケ魚醤「最後の一滴」の開発について発表した。「最後の一滴」は、2013年に課題研究の中で開発された調味料である。地域で採捕され、人工授精に供されたサケは食用や加工に向かないため、廃棄されていた。このサケの魚体の有効利用は、その前から課題として存在しており、様々な加工の試行錯誤をしてきたが、どれも形にならなかった。

そんな中で、県の水産試験場が報告書として上げていた魚醤の成功例やインターネット上の情報から、サケの魚醤開発に取り組んだ。

開発から販売までは、温度などの発酵条件のデータを取る、成分分析の手法に触れるといったところから、マーケティング、商談、販売の場面では、化学、食品管理、水産流通などの科目の単元をベースに生徒に伴走し活動を広げてきた。

これらの活動をすべて生徒が自発的に行ったというわけではなく、実際には教員がある程度提示をしたり、学習領域を教えているコースとしての課題としての必然性をもって取り組みながら分析や実験などの場面場面で生徒が試行錯誤する機会を作ったりして進めてきた。



このような指導においては、教員の食品製造や科学、衛生に関わる部分の体型的な理解が最低限必要であるとともに、一定期間中に一定の成果を出すために進めていく自己管理、未知へのチャレンジではあるがやり切ることで生徒に信頼感を示すことなどが必要になってくるのではないかと考える。

家庭科部会

1 全県講習会

期 日 令和5年8月4日（金）

会 場 高陽荘

（1） 部長挨拶

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会部長

新潟県立長岡大手高等学校長 佐藤 一彦

開会に当たり、宮崎市で開催された、第71回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会についてお話しします。7月27日（木）、28日（金）に、北陸ブロック成人会長として参加してきました。

「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」それぞれ6題（福島、山梨、石川、大阪、広島、大分）（滋賀、徳島、鹿児島、北海道、福島、東京）の発表がありました。「ホームプロジェクト」で文部科学大臣賞を受賞したのは、大分県立日田高校の発表です。災害時には、「自助と互助」だけではなく、「共助と公助」を目指して、1人暮らしの祖母のために、市役所や自治会長からの助言を受けて、祖母の自宅から避難所までのストリートビューを作成したというものでした。

「学校家庭クラブ活動」で文部科学大臣賞を受賞したのは、北海道札幌北高校の発表です。私たちから変えていくジェンダーフリーをテーマに、アンコンシャスバイアス（人々が無意識に持っている先入観）に注目して、校内外でアンコンシャスセミナーを実施したり、「北高すごろく」を作成して、それまで無意識下にあったジェンダー問題に自ら気づいてもらうというものでした。

何れの研究とも、課題設定から研究活動Ⅰ、中間評価を経て、研究活動Ⅱ、最終評価にいたるのですが、文部科学大臣賞を受賞した高校は、中間評価後に大きくブラッシュアップしている印象を受けました。中間評価については、自己評価、他者による評価どちらも

良いのですが、どう評価して研究活動Ⅱに繋げるかについて、家庭科の教職員の皆さんの専門的見地からのアドバイスが鍵を握っているのだらうと思いました。

（2） 主管校校長挨拶

新潟県立新井高等学校長 奥田 優

今回の全県講習会は、認知症サポーターやオレンジリングなど、介護福祉に関わる内容、及び地元の「食」の魅力をしっかりと認識することで、地元貢献地元定着の生活スタイルの意識付けと学校教育との結びつきに関する内容があります。

さて、皆さんもご承知のとおり、糸魚川市及び上越市は海岸、山岳、溪谷、温泉など、変化に富んだ地形、美しい景観、豊かな自然に恵まれています。北陸街道、北国街道は、地方の文化が行き交う場所であり、食文化も育ち、成熟し、地域生産品としていろいろな産業が栄えたところです。例えば、妙高市に伝わる伝統調味料「かんずり」は、この地方に伝わる独特の作り方で、唐辛子を発酵熟成させた香辛調味料です。その歴史は、上杉謙信公が上洛の際に持ち帰って、この地上越新井地方に根付いたことが、「かんずり」づくりのきっかけとなったと云われています。

認知症の高齢者も、介護が必要になっても住みなれた自宅、地域で生活し続けたいという思いを抱いていると思います。地場産食材の魅力を広めることで、「食」の側面とあわせて手を差し伸べられればと思います。

（3） 講演

「認知症サポーター養成講座について」

講 師

上越市社会福祉協議会

白倉 由利枝 様

喜多山 恵称 様

(ア) ふくしとは

福祉(ふくし、英: Welfare)は、「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味する言葉であり、すべての市民に最低限の幸福と社会的援助を提供するという理念を表しています。すべての人は、「しあわせに」「よりよく生きる」福祉の権利を有すると言えます。

その中で私たち社会福祉協議会は「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として社会福祉法 109 条に定められ、すべての市町村、政令指定都市の区、都道府県、全国の段階に配置されています。

(イ) 上越市社会福祉協議会のお仕事

市区町村社協は、地域福祉を推進する中核的な団体として、地域住民及び福祉組織・関係者の協働により地域生活課題の解決に取り組み、誰もが支え合いながら安心して暮らすことができる「ともに生きる豊かな地域社会」づくりを推進することを使命とし、地域福祉事業、介護福祉事業、障がい福祉事業を展開しています。

私たち地域福祉部門の中の事業の一つに「福祉教育推進事業」があります。一人ひとりを大切にする地域づくり(互いを認め支え合う意識の醸成)を目的に、地域住民、企業、団体、学校において、それぞれの学習の目標にあったプログラムの相談、提案、実施を行っています。

(ウ) 高齢社会をいきる

日本は医療の向上と健康意識の高まりで、健康で長生きが可能な長寿大国となりました。高齢社会となった日本では、高齢社会対策基本法(国民が生涯にわたり安心して暮らせる社会の形成をめざして制定された法律)が 1995 年成立し、「公正で活力ある社会」、「地域社会が自立と連帯の精神に立脚して形成される社会」、「豊かな社会」を基本理念とした高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられる地域社会の実現が進められている反面、高齢者人口の増大により、認知症人口も年々増加しており、認知症の正しい理解による地域共生社会が求められています。

(エ) 認知症サポーターキャラバンの展開

尊厳をもち最期まで自分らしくありたい、これは誰もが望むことですがこの願いを阻み、深刻な問題になっているのが認知症です。今や老後の最大の不安となり超高齢社会を突き進む日本にとって最重要課題の一つとなっています。認知症は誰でも起こりうる脳の病気によるものです。認知症の人が記憶障害や認知障害から不安に陥り、その結果まわりの人との関係が損なわれることもしばしば見られ、家族が疲れ切って共倒れしてしまうことも少なくありません。周囲の理解と気遣いがあれば穏やかに暮らしていくことは可能です。

まずは誰もが認知症について正しい知識をもち、認知症の人や家族を支える手だてを知っていれば「尊厳ある暮らし」をみんなで守ることができます。

(オ) 地域共生社会の実現

2019 年に策定された「認知症施策推進大綱」では認知症になってもならなくても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる「共生」を目指し「認知症バリアフリー」の取組を進めていくと共に「共生」の基盤の下、通いの場の拡大など「予防」の取組も進められています。個人の意識の醸成を図ると共に、共に生きる福祉社会の実現が進められています。

(カ) レクリエーションとDVDの視聴

脳の活性化につながるレクリエーションの紹介です。脳の血流を促進する運動です。2人組でじゃんけんをして相手と自分の指の数の合計を素早く口に出して言うというゲームです。単純な計算を数多く解いた方が脳の血流がよくなり、授業の前のウォーミングアップにも効果的です。

また、認知症サポーターキャラバンについてのDVDは認知症の方に対する適切な対応や声かけなどが、間違った対応と比較しながら示されており、わかりやすい内容となっています。

(4) 講演

「ねえねえ、上越野菜って知ってる!？」

～子どもから大人へ伝える次世代の食育と
地域農業が果たす役割～

講師 JA えちご上越あるるん畑店長
亦野 潤一 様



「上越の野菜と言ったら〇〇!」ときかれた時、パッと何らかの品目を思い出す方は果たしてどの程度いらっしゃるのでしょうか。恐らく大多数の方は回答に困ってしまうのではないかと思います。

上越に魅力的な野菜、もしくは古くから食べられてきた伝統野菜は無いのかと言えば全くそんなことはなく、上越は「米」「酒」「海産物」に加えて「野菜」の種類も充実した、正に「食材の宝庫」と呼ぶにふさわしい地域と言えます。特に、柿崎地区で長年栽培されてきた「ひとくちまぐわ」や昭和40年代に頸城区の吉田氏によって作られた「頸城オクラ」、その他にも「えんぴつナス」や「なます南瓜」、「ずいき」など、「上越野菜」として総称されるこれらの野菜は、古くから上越の人々に愛されてきた上越が誇る伝統野菜です。

問題は、それらをしっかりと認識できている人の割合が極めて少ないことにあります。定期的に行うアンケートや、あるるん畑での日常業務の中で常々感じているのは、特に「上越野菜」の認知度が極めて低いという事実です。

実際、スーパーや飲食店でも「上越野菜」という名前を目にすることはほとんどありませんし、仮に上越野菜という名前は知っていたとしても、どのような品目が上越野菜に含まれるのかを知っている人は稀なような気がします。

「上越に住んでいるのに上越野菜を知らない」これは大変悲しいことだと感じております。安曇野市出身の方が「自分の住む地域はワサビが有名なんだ」といった気持ちを心のどこかに必ず持っているように、「自分の住む地域は上越野菜が有名なんだ」という気持ちを持つ方が上越に増えたら、もしくは上越野菜に限らずとも、「雪下・雪室野菜」や、その他上越で生産される数々の野菜に魅力を感じる方が増えたら、野菜を基軸とした地元愛が育まれ、結果的に地域農業の発展にも繋がるのではないのでしょうか。

私はそういった考えから、特に地元小学校を対象とした食農教育活動を行ってきました。単純な直売体験を始め、大規模なものと半年以上かけて「栽培」「収穫」「レシピ考案」「加工」「販売」すべてを体験させる「六次産業化体験」も何度か行っております。

その中で特に印象的だったのは、体験活動を見学に来る保護者の姿です。もちろん、子どもたちの姿も印象に残ってはいるのですが、それ以上に「保護者が子どもの活動に心からの関心を示している」ということの方が強く印象に残りました。そしてその関心が我が子の活動の様子に対してだけではなく、活動のテーマ自体に向けられていることにも気が付きました。事実、体験活動後にあるるん畑へ地場産野菜を定期的買いに来るようになったというご家族は数多くいらっしゃいます。つまり、児童へ地場産野菜の魅力を伝えることは、その保護者へも地場産野菜の魅力を伝えていることと同義だったのです。同時に、児童1人への教育は、その子の両親、そしてその両親の両親を含め、単純計算で7名への教育に繋がる可能性を秘めているということにも気が付きました。

私は現在、子どもに地場産農産物に関する話をする時には必ず「お父さん、お母さんにも教えてあげてね」と伝えています。子どもが「ねえねえ、上越野菜って知ってる?」と両親に自信満々で質問をする姿を想像しながら活動しているのです。

本講演では「子どもが大人へ伝える食農教育」が、上越野菜を始めとした地場産農産物の魅力を地域へ波及させる鍵となる可能性について、実際の活動を例に挙げ言及すると共に、「旬菜交流館あるるん畑」が売上1億円から7億円にまでに成長できた経緯にもスポットを当て、「地域農業発展」と「野菜を基軸とした地元愛の育成」に向けた道筋を提案いたします。

(5)指導講評

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会副部長
新潟県立新潟翠江高等学校長 小林 麻利子

本日のご講演は、共通科目家庭の目標に直接関連する内容でした。家庭科では生徒の様々な体験的活動などで、普段から社協との関わりは多いと思いますが、午前の講演では、社会問題としても大きくなっている認知症について、知識を整理し新しくすることができました。福祉の分野については、全ての人々の幸せや、よりよく生きることを取り扱うことに変わりはありませんが、社会の状況は一昔前とはずいぶんと変わっており、知識を新しくするよい機会となりました。

午後の講演では、JA直売所の一連の活動から、食の問題、食と切り離せない地域の農業、そして地域愛を育てるところまで、とても大きなお話をお聞きしました。広い新潟県各地にはそれぞれの地域の特産があり、それらを取り巻く地域の活動がありますが、それらを知らない生徒もいます。まずは知ること、調べること、そして知るだけでなく、実習で使ったり、現場を見ることで自分のものとなる、自分事としていく、させていくことが大事ではないかと思います。今後の授業はもちろん、家庭クラブ活動、探究学習、地域と連携した活動、アントレプレナーシップ教育等、様々なところで生かすことのできる有意義な内容を学ぶことができました。

(6)閉会挨拶

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会副部長
新潟県立見附高等学校長 丸山 綾子

講演1では、上越市社会福祉協議会の白倉様、喜多山様より、福祉の意味、認知症のしくみ、共生社会のもと「生きる」こと、相手を思いやる心や接し方を学ぶことができました。

講演2では、あるるん畑の亦野様より、上越野菜の特徴、地域農業の活性化、地産地消、新野菜の開発など、地元愛にみちた取り組みを知ることができました。

私の学校がある見附市も、ニラを地産野菜として、力を入れており、本校家庭科教諭が、フードデザインの授業で、秋に取り上げる計画をしています。

今日は、皆さんと一緒にレクリエーションや試食を交えながら、楽しく学ぶことができました。来年は、もっと参加者を呼び掛けて、学びを共有したいと思います。

2 研究成果の刊行

「家庭科研究 59 号」発刊

新潟県高等学校教育研究会家庭部会、新潟県立教育センター、新潟県高等学校校長協会家庭部会、全国高等学校家庭クラブ、全国高等学校家庭科技術検定などからの報告を集録。

保健体育部会

1 保健体育部会 全県研究会

期 日 令和5年12月1日（金）
会 場 アトリウム長岡
参加者 32名

【講話】

新潟県教育庁保健体育課 部活動改革担当
副参事 桑原 文博 様
「休日の部活動の地域移行の現状について」



【講演】

流通経済大学 松井 英幸 様 様
「しくじり監督 俺みたいになるな～パワハラ指導に陥らないために～」



2 全県養護教諭研修会

期 日 令和5年10月25日（水）
会 場 新潟県健康づくり・スポーツ医
科学センター（ハイブリッド方式）
参加者 108名

【講演】

東京学芸大学 教育心理学講座
准教授 福井 里江 様
「困難を抱える生徒・保護者との対話的な
関わりについて」



3 刊行物

研究集録（第59集）
保健体育部会 HP に掲載

情報部会

1 研究会

(1) 情報教育研究会（Web開催）

期 日 7月28日（金）

講演

演 題

「生成AIの台頭～ChatGPTの
教育現場へのインパクト～」

講 師

学校法人電子開発学園

メディア教育センター

岩佐 剛 様

研究発表

テーマ

「教科「情報Ⅰ」の授業実践について」

発表者

新潟中央高等学校 教諭 佐田裕之

参加者 26 名

(2) 全県研究協議会（Web開催）

期 日 11月30日（木）

講演

演 題

「大学入学テスト『情報Ⅰ』ではかる
資質・能力とは」

講 師

独立行政法人 大学入試センター

試験問題調査官 水野 修治 様

研究発表

テーマ

「情報教育の学習評価の方法」

発表者

東京都立三鷹中等教育学校

指導教諭 能代 茂雄 様

参加者 42 名

2 代議委員会（書面審議）

議題

令和5年度高教研情報部会役員について

令和4年度事業報告および決算報告

令和5年度事業計画および予算について

3 研究成果

研究成果については情報部会HPに掲載する予定です。

生徒指導部会

1 全県委員会

第1回 日時 7月11日（火）

会場 県立巻高等学校 視聴覚ホール

第2回 （書面審議）

2 全県研究協議会

日時 11月17日（金）

会場 県立巻高等学校

視聴覚ホール・会議室

内容 講演会及び研究協議

〈午前〉講演会

演題 「『生徒指導提要』改訂の背景とこれを
ふまえたこれからの生徒指導の方向性」

講師 国立教育政策研究所

総括研究官 高橋 典久 様

〈午後〉研究協議

第1分科会「生徒の健全な学校生活を保障し、
主体性を大切にする校則のあり方」

第2分科会「生徒一人一人に寄り添う特別支援
と生徒支援のあり方」

第3分科会「生徒の困り感や不安感を受け止め
ることのできる学校作りのあり方」

発表及び講評

講評者 国立教育政策研究所

総括研究官 高橋 典久 様

新潟県教育庁生徒指導課

副参事 加納 直恵 様



3 刊行物

生徒指導部会誌 第56号

内容 研究内容・資料・部会活動報告

冊数 350冊

図書館部会

1 総会・講演会・研究協議会

期 日 令和5年9月22日（金）

会 場 新潟ユニゾンプラザ

特別会議室

参加者 22名

2 刊行物

『 図書館部報 』 第67号

内容

【講演】14:00～16:00

演題：探究的な学びの場としての
学校図書館

講師：東京都立立川国際中等教育学校
図書館司書 杉山 和芳 様

【図書館部会総会】16:15～16:30

講演や議案等については、『図書館部報』
をご覧ください。



視 聴 覚 部 会

1 視聴覚部会総会

期 日 12月15日(金)

議 題

- (1) 令和4年度事業総括
- (2) 令和4年度決算報告
- (3) 令和5年度事業計画
- (4) 令和5年度予算案

2 指導者研修の実施

- (1) NST新潟放送の見学・講習

期 日 12月15日(金)

参加者 7人

- (2) NHK校内放送技術者講座

現地講習、オンライン講習

期 日 12月27日(水)～28日(木)

参加者 現地参加2人、オンライン参加6人

※当部会はNHK校内放送指導者講座への参加を推奨しています。読みや番組の指導方法や審査技術を習得することができ、修了時には、HNK杯全国高校放送コンテストの審査員として認証する「審査員証」が交付されます。また、参加者には、NHK新潟放送局からの補助金による研修補助制度もあり、参加しやすいものになっています。まだ、受講経験の無い会員の皆様にぜひご参加いただきたいと思います。

3 コンテストの主催及び共催

放送コンテスト県内大会の主催および高文連放送専門部との共催を行い、大会の審査・運営を通して指導技術の向上を図っています。

また、日程・大会結果は、本部会刊行誌「視聴覚教育研究」に掲載します。

- (1) 新潟県高等学校放送コンテスト(主催)

6月13日(火) 参加者 17人

- (2) QK杯新潟県校内放送コンクール(共催)

11月12日(日) 参加者 14人

※以上参加者数は事業参加教職員数

4 刊行物

名 称 視聴覚教育研究 第61号

発行日 令和5年度末

部 数 40冊

内 容 実践報告

コンテスト結果と事業報告

視聴覚部会規約

高等学校教育研究会規約

その他

定 通 部 会

I 定時制通信制教育総合研究会

期 日 令和5年7月31日（月）

当番校 県立堀之内高等学校

会 場 パストラル長岡

主 題 「未来に向かって生徒の可能性を
拓く定時制・通信制教育の推進」

1 令和4年度県外視察事業報告

開志学園高等学校

2 研究発表

①学習指導 県立佐渡高等学校相川分校

②進路指導 長岡英智高等学校

3 指導助言

高等学校教育課指導主事 羽賀 己生 様

4 講演

演題「子どもたちの命を支えるために」

講師 上越教育大学大学院学校教育研究科

講師 寺戸 武志 様

II 役員会総会・理事会

<第1回>

期 日 令和5年5月15日（月）

形 式 Web会議ツール「Zoom」を活用し
たオンライン開催

議 事 令和5年度役員の委嘱について

報 告 令和4年度事業報告

令和4年度決算報告

協 議 令和5年度事業計画（案）

令和5年度予算（案）

<第2回>

期 日 令和6年2月1日（木）

形 式 Web会議ツール「Zoom」を活用し
たオンライン開催

報 告 令和5年度事業報告

令和5年度決算中間報告

協 議 令和6年度事業計画（案）

令和6年度教育総合研究会（案）

III 各校情報交換会

期 日 令和5年11月22日（水）

当番校 県立新潟翠江高等学校

会 場 県立新潟翠江高等学校

参加校 県内定通部加盟校11校

内 容 教務、生徒指導、進路指導
等について

IV 県外視察

期 日 令和5年8月28日（月）
29日（火）

視察校 愛知県立城北つばさ高等学校

愛知県立刈谷東高等学校

派遣校 県立荒川高等学校

県立出雲崎高等学校

V 刊行物

実践集録 60号 300部

令和6年2月吉日 発刊

研究会・講習会等の開催	目 的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期 日	令和5年6月26日(月)	令和5年11月16日(木)	令和6年1月30日(火)
	場 所	燕中等教育学校	県立生涯学習推進センター(大研修室)	燕中等教育学校
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	今年度計画及び全県研究協議会の実施について	「新学習指導要領を踏まえた授業づくり～主体的・対話的で深い学びの実践を目指して～」 「日本近代小説と動物－宮沢賢治の童話、芥川龍之介『河童』、中島敦『山月記』他を読む－」	今年度活動の反省 次年度活動計画
	講 師 職 氏 名		新潟大学教育学部 教授・堀 竜一	
	研究発表 テーマ・職・氏名		① 実践発表 「他者の視点に触れる対話的学びの実践」～小説『鞆』の指導から～・佐渡高校教諭・西脇爽気 ② 指導講評 県立教育センター 指導主事・近藤崇	
	参 加 者 数	12名	43名	11名
研修分野の分類		②	②③④	②
研究調査	主 要 テーマ	特になし		
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数			
図書購入	図 書 名 冊 冊 数	特になし		
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	『国語研究』第70集		
	主 な 内 容	各種研究研修報告等		
	冊 数	200冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 国語部会 令和6年度事業計画（案）

部長 萱森 茂樹

研究会・講習会等の開催	目 的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期 日	6 月 中 旬	1 1 月 下 旬	令 和 7 年 1 月 下 旬
	場 所	未 定	未 定	未 定
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	年度計画の検討 全県研究協議会 の実施計画	「新学習指導要領を 踏まえた授業づく り～主体的・対話 的で深い学びの実 践を目指して～」 講演テーマ未定	年度活動の反省 次年度活動計画
	講 師 職 氏 名		講師未定	
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名		発表者未定（2名） 指導主事講評 県立教育センター 指導主事	
参 加 者 数		1 6 名	約 7 0 名	1 6 名
研究分野の分類		②	①②③④⑤⑥	②
研 究 調 査	主 要 テーマ	特になし		
	調 査の期 日 場所・参加者 数			
図書 購入	図 書 名 冊 数	特になし		
刊 研 行 究 物 成 果 版	名 称	『国語研究』第71集		
	主 な 内 容	研究協議会発表・講演内容、各種研究研修報告等		
	冊 数	2 0 0 冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研地理歴史・公民部会 令和5年度事業報告書

部長 早川 勝志

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民科の新学習指導要領及び大学入学共通テストに向けた研究を推進し、地理歴史・公民科教育の発展充実をはかる。		
	期日	6月30日(金)	8月18日(金)	11月28日(火)
	場所	県立新潟高等学校	県立直江津中等教育学校	新潟明訓中学・高等学校
	研究会名称	研究協議会	地理研究会・巡検	公民研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「歴史総合の授業を創るために」	「上越の港・里をめぐる～世界・未来とのつながり～」	「思考力を鍛える『公共』の授業づくりー問い、教材、単元に着目してー」
	講師職氏名	長野県伊那弥生ヶ丘高校 教諭 小川 幸司 様	県立有恒高等学校 藤本 博之 教諭	筑波大学附属駒場中学校・高等学校 教諭 山本 智也 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	「教科横断型授業の実践～ウクライナ避難民の方との授業を中心に～」 県立小千谷高等学校 湧井 勇記 教諭	—	「SAMR モデルにもとづく『公共』の授業実践ーICTを活用してー」 新潟市立万代高等学校 加藤 直樹 教諭
	参加者数	48	14	30
研修分野の分類 下記①から⑦を選択し、複数可。主となるテーマを先頭に記入。		④①②③	⑤①⑦	④①②③
研究調査	主要テーマ	—		
	調査の期日 場所・参加者数	—		
図書購入	図書名 冊数	—		
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名称	『地理歴史・公民研究』第 62 集（令和 6 年 3 月末日刊行）		
	主な内容	【総会・研究会報告】研究協議会(湧井勇記・子安一輝・横山翔・小林直人)/地理研究会・巡検(堀川裕貴子)/公民研究会(丸山玲奈) 【研究論文】「日本の伝統における櫓について」(関根正人)、「前近代の歴史事象から近現代の歴史叙述へー歴史総合から日本史探究への接続の方法」(中村崇志) 【地歴公民の広場】「『ロイロノート』を活用した授業実践」(高見由光) 【大学入学共通テストに向けた取組と振り返り】世界史B(子安一輝)、日本史B(中林牧子)、地理B(山崎雄一)、政治・経済(小林真也)、倫理(小林則夫) 【部会通信】(事務局)		
	冊数	260 冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研地理歴史・公民部会 令和6年度事業計画（案）

部長 早川 勝志

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民科の新学習指導要領及び大学入学共通テストに関する研究を推進し、地理歴史・公民科教育の発展と充実をはかる。	
	期日	6月下旬(予定)	11月中旬(予定)
	場所	県立新潟高等学校	県立文書館大研修室(予定)
	研究会名称	研究協議会	地理歴史研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「中学校、大学から見た高校新学習指導要領・大学入学共通テスト」(仮)	「地理探究・日本史探究・世界史探究の実践と課題」(仮)
	講師職氏名	新潟大学人文学部 准教授 中村 元 様	—
	研究発表 テーマ・職・氏名	—	「世界史探究の実践と課題」 大野 夏希 教諭 (巻高校) 「日本史探究の実践と課題」 中村 崇志 教諭 (長岡大手高校)
	参加者数	50	30
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		④①②③	④①②③
研究調査	主要テーマ	—	
	調査の期日 場所・参加者数	—	
図書購入	図書名 冊数	—	
刊行物 研究成果 出版	名称	『地理歴史・公民研究』第63集 (令和7年3月末日刊行予定)	
	主な内容	総会・研究会報告、研究論文・実践報告、私の教材紹介、 地歴公民の広場、大学入学共通テストに向けた取組と振り返り、部会通信	
	冊数	260冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 数学部会 令和5年度事業報告書

部長 小林 英明

研究会・講習会等の開催	目 的		学力の向上を目指した数学教育の研究		
	期 日		6月30日（金）	10月25日（水）	11月30日（木）
	場 所		中越地区 （アトリウム長岡）	上越地区 （柏崎市民プラザ）	下越地区 （新潟テルサ）
	研 究 会 名 称		数学教育研究会	全県研究協議会	地区研究協議会
	研 究 会 テ ー マ		高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について
	講 演	テ ー マ	「いろいろな幾何学」	「微分方程式の研究動向」	「数学教育におけるICT利用と教科書のデジタルコンテンツについて」
		講師 職・氏名	新潟大学理学部理学科 数学プログラム 助教 折田 龍馬 様	新潟工科大学 准教授 竹野 茂治 様	明治大学大学院 教授 阿原 一志 様
	研 究 発 表	テ ー マ	「大学入学共通テストに向けて」	「数学的な学びを高める工夫」	「ICTを活用した授業実践」
		発表者 職・氏名	県立三条高等学校 神崎 直利 教諭	県立高田高等学校 川田 大海 教諭	県立中条高等学校 富田 暁 教諭
参 加 者 数		90名	42名	77名	
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に			①，②	①，②，③，④	①，②，③，④
研究調査	主 要 テ ー マ		・ 数学力向上のための意欲を引き出す指導について ・ 数学の指導におけるICTの活用について		
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数		各県内高等学校		
購 入 書	図 書 名 冊 数		なし		
刊 行 成 果 物 出 版	名 称		「数学教育研究集録」第62号		
	主 内 容		会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容		
	冊 数		300冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 数学部会 令和6年度事業計画（案）

部長 小林 英明

研究会・講習会等の開催	目 的	学力の向上を目指した数学教育の研究		
	期 日	7 月	11月 1 日（金）	11月または12月
	場 所	上越地区	下越地区	中越地区
	研 究 会 名 称	数学教育研究会	全県研究協議会 兼北陸 四県数学教育研究大会	地区研究協議会 ※北陸四県開催のため中止
	研 究 会 テ ー マ	高等学校における数学 教育の諸問題について	数学的な見方・考え方を 働かせて、数学的活動を 通して、探究的な学びを 深め、数学を活用する態 度を育む数学教育	
	講 演	テ ー マ	未定	
		講師 職・氏名	新潟大学理学部教授等 元筑波大学附属小副校長 田中 博史 様	
	研 究 発 表	テ ー マ	「新潟大学入試問題の 分析について」	(数学ⅠA分野) (数学ⅡBⅢ分野) (大学入試分野)
		発表者 職・氏名	県立柏崎高等学校 丸山 和則 教諭 津南中等 水谷 華 教諭 白根高校 長谷川拓也教諭 柏崎高校 丸山和則教諭	
	参 加 者 数		80名（予定）	200名（予定）
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①, ②,	①, ②, ③, ④	
研究調査	主 要 テ ー マ	・ 数学力向上のための意欲を引き出す指導について ・ 数学の指導におけるICTの活用及び観点別評価について		
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	各県内高等学校		
購 入 書	図 書 名 冊 数	未定		
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	「数学教育研究集録」第63号		
	主 内 容	会員の実践研究、研究大会報告及び講演内容		
	冊 数	300冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する		
	期日	7月18日(火)	10月10日(火)	11月21日(木)
	場所	Web 会議	新潟向陽高等学校 会議室	新潟県立新潟江南高等学校
	研究会名称	第1回役員会	地学教育研究会	物理教育研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」		「ヒトの体にみる5億年の物語」	「重イオン加速器で探る原子核」
	講師職氏名		神奈川県立生命の星・地球博物館 学芸部次席・主任学芸員 大島 光春	新潟大学理学部 准教授 大坪 隆
	研究発表 テーマ・職・氏名	R 4 事業報告 決算報告 R 5 事業計画 予算案		・シミュレーションソフト「PhET」を用いた探究的な授業実践 国際情報高等学校 小林 力 ・物理センサの出力アプリ「Phyphox」の紹介と実験での活用例 巻高等学校 高野大介 ・アプリ「Phyphox」を用いた授業実践の一例 新潟中央高校 本田 崇 ・概念調査問題を通じた授業の見直し 長岡大手高等学校 山本 岳 ・VBA を利用した Runge-Kutta 法による常微分方程式の解法の紹介 国際情報高等学校 遠藤 浩
	参加者数	26 名	20 名	20 名
研修分野の分類 下記①～④から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に			①②	①②③

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する		
	期日	11月28日(火)	12月6日(水)	2月1日(木)
	場所	長岡市地域交流センターまちなかキャンパス長岡5F交流ルーム	高田高等学校セミナーハウス「一義館」	Web会議
	研究会名称	化学教育研究会	生物教育研究会	第2回役員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「理科授業における教師と生徒の関係」	「昆虫類の初期分岐と陸域環境への適応ー比較発生学の視点からー」	
	講師職氏名	上越教育大学教職大学院 教授 桐生 徹	筑波大学生命環境系 山岳科学センター菅平高原実験所 特命教授 町田 龍一郎	
	研究発表 テーマ・職・氏名	「遠隔授業で考える理科教育のICT活用について」 新潟翠江高等学校 高見 砂織 「主体的・対話的な学びのためのICT活用」 燕中等教育学校 植木 啓信	「理科『生物』のとりくみ」 燕中等教育学校 間島 絵里子	R5事業報告 中間決算報告 R6事業計画 予算案
	参加者数	19名	15名	21名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①②③⑦	①②③	
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購入図書	図書名 冊数			
刊行物出版	名称	理科研究集録第63号		
	主な内容	研究報告・講演要旨		
	冊数	210冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	7月頃	9～11月	9～11月	9～11月
	場所	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	第1回役員会	物理研究会	化学研究会	生物研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	活動計画 予算案	未定	未定	未定
	講師職氏名		未定	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名		未定	未定	未定
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～④から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に			①②③④	①②③④	①②③④

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	9～11月	1月下旬 までに		
	場所	未定	未定		
	研究会名称	地学研究会	第2回役員会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	各種報告 活動計画		
	講師職氏名	未定			
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定			
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～④から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①②③④			
研究調査	主要テーマ	ICT の活用/新学習指導要領における観点別評価の実践			
	調査の期日 場所・参加者数	未定			
図書購入	図書名 冊数				
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名称	理科研究集録 第64号			
	主な 内容	研究報告・講演要旨			
	冊数	210冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 芸術部会 令和5年度 事業報告書

部長 小堀 さとみ

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教科	全体	音楽	美術		書道
	期 日	6 月 26 日（月）	12 月 15 日（金）	11 月 7 日（火） 11 月 8 日（水）	8 月 21 日（月） 12 月 13 日（水）	8 月 17 日（木）
	場 所	見附市中央公民館 創進学園高等学校	県立三条東 高等学校	宮崎 市民プラザ	県立見附 高等学校	新潟・出雲崎 ・和島
	研 究 会 名 称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科 研修会	美術科 研修会	美術工芸科 研究協議会	書道科 研修会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	・総会 ・研究協議及び 分科会 ・創進学園高等学校 授業見学「素描」 及び施設見学	授業研究 授業における 歌唱指導について	第60回 全高美工研 2023宮崎大会 「テゲ・テラス ～未来(あした) にマップス 美術、工芸教育 ～」	2025新潟大会 実行委員会	鑑賞 新潟・出雲崎・和島 「良寛の書を巡る バスツアー」 良寛書所蔵個人宅 及び美術館見学等
	講 師 職 氏 名		相澤直人氏 (指揮者／作曲家)	記念講演 廣村正彰氏		小島正芳氏 (全国良寛会会長)
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名		・講師による 生徒への歌唱 レッスン(聴講) →モデルクラス 学級閉鎖のため 中止 ・講師による 講義(実習含む) ・各校の歌唱分野 の授業実践に ついて (情報交換)他	第2分科会 「生活や社会 とつながる 美術、工芸教育 とは」 ろうけつ染め ～地域に溶け込む 手仕事の流れ～ 県立見附高等学校 田中幸男 教諭	・組織の確認 業務分担に ついて ・会場、会期、 日程について ・各部の 準備計画 ・連絡共有方法 について 他	
参 加 者 数	29名	12名	5名	15名	11名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①、②、⑤	①、②、⑥、 ⑦	①、②、③、④、⑤、 ⑥、⑦		①、②、④、 ⑤
研究調査	主 要 テ ー マ	「新しい芸術教育の取組について」 I C T の活用および新学習指導要領に沿った取組について				
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	各高等学校において日常的なテーマとして研究し、各科研修会にて 情報共有した（場所・参加者数は上記）				
図書購入	図 書 名 数 冊	なし				
刊行物成果 出版	名 称	報告をまとめ、H P に掲載する				
	主 な 内 容	実践報告等				
	冊 数					

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 芸術部会 令和6年度 事業計画（案）

部長 小堀 さとみ

研究会・講習会等の開催	目	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教 科	全 体	音 楽	美 術		書 道
	期 日	6 月 下 旬	12 月	8 月 20 日（火）	未 定	11 月 又 は 12 月
	場 所	高田城址公園 オーレンプラザ	未 定	星陵会館 （東京）	未 定	県立新潟向陽 高等学校
	研 究 会 名 称	芸術部会総会 研究協議会	音 楽 科 研 修 会	美 術 科 研 修 会	美術工芸科 研究協議会	書 道 科 研 修 会
	研 究 会 テ ー マ 「 講 演 テ ー マ 」	・ 総 会 ・ 研究協議 及び分科会	授 業 研 究 I C T を 活 用 し た 授 業 に つ い て ～ 中 高 の 連 携 を 目 指 し て ～	第 61 回 全 高 美 工 研 2024 本 部 大 会 「 美 工 研 の 歩 み ～ 持 続 可 能 な 研 究 会 の あ り 方 ～ 」	2025新潟大会 実 行 委 員 会	授 業 研 究 I C T を 活 用 し た 遠 隔 授 業 に つ い て
	講 師 職 氏 名		未 定		未 定	
	研 究 発 表 テ ー マ ・ 職 ・ 氏 名	【音楽】 未定 【美術】 「源流と実」 分科会テーマに 沿った実践発表 （2025新潟大会 プレ発表） 【書道】 未定	未 定		・ 各部の計画 進捗状況確認 ・ 大会予算 について ・ 2024 本部大会 参加について 他	未 定
参 加 者 数	53 名	15 名	18 名		20 名	
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①、②、⑤	①、②、⑥、 ⑦	①、②、⑥、⑦		①、②、④、 ⑤
研究調査	主 要 テ ー マ	「新しい芸術教育の取組について」 「持続可能な研究会のあり方について」				
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	「新しい芸術教育の取組について」 各高等学校において日常的なテーマとして研究し、各科研修会にて情報共有した （場所・参加者数は上記） 「持続可能な研究会のあり方について」 令和 6 年 6 月、高田城址公園オーレンプラザにおいて美術・工芸科の研修会 （2025 新潟大会プレ）で発表予定				
図書購入	図 書 名 冊 数	なし				
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	報告をまとめ、H P に掲載する				
	主 内 容	実践報告等				
	冊 数					

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 英語部会 令和5年度事業報告書

部長 石積 希

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上	
	期 日	8月21日（月）	11月17日（金）
	場 所	オンライン開催	オンライン、対面併用のハイブリッド開催
	研 究 会 名 称	夏季研修会	全県研究大会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	県内教諭による実践紹介、情報交換	新課程における指導と評価の実践
	講 師 職 氏 名	なし	鹿児島県総合教育センター 高校教育研修係長・有嶋宏一
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	三条高等学校の新潟県WWLコンソーシアム構築支援事業の実践について・教諭・谷川美雪	なし（講演メインだったため）
	参 加 者 数	22名	60名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		②③④	①②④
研究調査	主 要 テ ー マ	なし	
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	なし	
購入図書	図 書 名 冊 数	なし	
刊行物出版	名 称	「英語部会誌」第68号	
	主 内 容	研修会報告、実践報告など	
	冊 数	300冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 英語部会 令和6年度事業計画（案）

部長 石積 希

研究会・講習会等の開催	目 的	英語教育の推進と向上			
	期 日	8 月	1 1 月	未 定	
	場 所	未 定	未 定	未 定	
	研 究 会 名 称	夏季研修会	全県研究大会	会員有志による研究会	
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	英語教育の推進と向上	英語教育の推進と向上	英語教育の推進と向上	
	講 師 職 氏 名	未 定	未 定	未 定	
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	研究発表：県内英語科教諭	・講演 ・研究発表：県内英語科教諭等	研究授業、実践発表等	
	参 加 者 数	1 0 0 人	1 0 0 人	1 0 0 人	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①～⑦	①～⑦	①～⑦	
研究調査	主 要 テ ー マ	新学習指導要領の指導と評価、ICT活用、授業改善			
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	未 定			
図書購入	図 書 名 冊 数	未 定			
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	「英語部会誌」69号			
	主 内 容	研修会報告、実践報告、寄稿等			
	冊 数	300部			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 農業 部会 令和 5 年度事業報告書

部長 椎谷 一幸

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展	
	期日	令和5年8月21日（月）	令和5年11月29日（水）
	場所	アトリウム長岡	加茂農林高等学校
	研究会名称	農業教育研究大会 （高田農業高等学校）	農業教育課題研究会 （加茂農林高等学校）
	研究会テーマ 「講演テーマ」	生徒の夢を創造し、実現する農業教育の推進 「米どころ新潟 バイオ戦略」	探究学習の指導と伴走 ～生徒の成長発達を実現する探究学習の理論と実践～
	講師職氏名	長岡技術科学大学 教授 小笠原 渉	Inquiry 合同会社 代表 山本 一輝
	研究発表 テーマ・職・氏名	「地域に開かれた農業教育について」 新発田農業高等学校 教諭 二瓶 武 「令和5年度学校農業クラブ指導者養成講座報告」 長岡農業高等学校 教諭 若山 起哉	
	参加者数	80名	25名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①②③	②③
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名 冊数		
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名称	「新潟県農業教育研究会誌」第58号（長岡農業高等学校）	
	主な内容	研究論文・報告文・トピックス・その他	
	冊数	160冊（予定）	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 農業 部会 令和 6 年度事業計画（案）

部長 椎谷 一幸

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展	
	期日	未定	未定
	場所	未定	未定
	研究会名称	農業教育研究大会 (新発田農業高等学校)	農業教育課題研究会 (加茂農林高等学校)
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定
	講師職氏名	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定
	参加者数	未定	未定
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①②③	②③
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名 冊数		
刊行物出版	名称	「新潟県農業教育研究会誌」第59号（長岡農業高等学校）	
	主な内容	研究論文・報告文・トピックス・その他	
	冊数	150冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高 教 研 工 業 部 会 令 和 5 年 度 事 業 報 告 書

(見学会・講習会の部)

部 長 長 井 英 幸

研究会・講習会等の開催	目 的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	9月27日（水）	9月29日（金）	9月29日（金）	11月9日（木）
	場 所	上越総合技術 高校CAD実習室	タワーパートナー ズセミコンダクタ ー(株)（妙高市）	新 発 田 南 高 等 学 校	新潟県立 新潟テクノスクール
	研 究 会 名 称	建築見学会	電気・電子 見学会	土木講習会	機械・電子機械 見学会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	「フルサット」 「斜めの家」 見学	タワーパートナ ーズセミコンダ クター(株) 見学	ドローンの活 用知識と操作 方法について	施 設 設 備 の 見 学
	講 師 職 氏 名			JUAAVACト [®] ローンエキスパートア カデ [®] ミー新潟校 荒木伸也 様 松井美紀 様	
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名				
参 加 者 数		16名	17名	11名	10名
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①⑤	①⑤	①②⑦	①②⑤
研究調査	主 要 テ ー マ				
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数				
図書購入	図 冊 名 数				
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	新潟県工業教育紀要第60号			
	主 内 容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表 事例・工業部会活動報告など）の令和5年度研究収録			
	冊 数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 5 年度事業報告書

(見学会・講習会の部)

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	12月1日(金)			
	場 所	新潟県環境分析センター			
	研 究 会 名 称	工業化学見学会			
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	工業化学見学会			
	講 師 職 氏 名				
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名				
	参 加 者 数	12名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		① ⑤			
研究調査	主 要 テ ー マ				
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数				
図書購入	図 書 名 冊 数				
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	新潟県工業教育紀要第60号			
	主 内 容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和5年度研究収録			
	冊 数	200冊			

① 専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 5 年度事業報告書

(研究会の部)

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	9月27日(水)	9月29日(金)	9月29日(金)	11月9日(木)
	場 所	上越総合技術 高校CAD実習室	タワーパートナーズ セミコンダクター(株)(妙高市)	新発田南高等学校	新潟県工業技術総合研究所
	研 究 会 名 称	建築研究会	電気・電子研究会	土木研究会	機械・電子機械研究会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	変化する建築 「変化する社会とともに新しい建築を考える」	「半導体業界の動向について」	研究協議 「高教研の在り方について」 「ものコン北信越大会の報告」	「県内産業と工業技術研究所の関わり」
	講 師 職 氏 名	NAKANO☆DESIGN 一級建築事務所 中野 一敏 様	タワーパートナーズ*セミコンダクター(株) 粉谷 直樹様		
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名				
参 加 者 数		16名	17名	11名	12名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		① ②	① ②	① ③	① ② ⑤
研究調査	主 要 テ ー マ				
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数				
図書購入	図 書 名 数 冊				
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	新潟県工業教育紀要第60号			
	主 内 容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の令和5年度研究収録			
	冊 数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 5 年度事業報告書

(研究会の部)

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	12月1日(金)	1月16日(火)		
	場 所	アトリウム長岡	長岡市 さいわいプラザ		
	研 究 会 名 称	工業化学 研究会	ロボット技術 研究協議会		
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	「ものづくり大会化学 分析部門の 審査・技術指 導について」	各ロボット競技 大会報告、 ロボット機構紹介		
	講 師 職 氏 名		ものづくり大学 技能工芸学部 情報メカトロニクス科 教授 三井 実 様		
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名				
	参 加 者 数	6 名	7 7 名		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		① ②	① ② ⑦		
研究調査	主 要 テ ー マ				
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数				
図書購入	図 冊 書 名 数				
刊 研 行 究 物 成 果 出 版	名 称	新潟県工業教育紀要第60号			
	主 内 容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表 事例・工業部会活動報告など）の令和5年度研究収録			
	冊 数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 6 年度事業計画（案）

（見学会・講習会の部）

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	10月～11月	未 定	10月上旬	9月下旬
	場 所	上越総合技術 （当番校）	新潟県央工業 （当番校）	新潟工業 （当番校）	新潟工業 （当番校）
	研 究 会 名 称	機械・電子機械 見学会	電気・電子 見学会	建築見学会	土木見学会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	「 」	「 」	「 」	「 」
	講 師 職 氏 名				
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名				
	参 加 者 数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		① ⑤	① ⑤	① ⑤	① ⑤
研究調査	主 要 テ ー マ				
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数				
図書購入	図 書 名 数 冊				
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	新潟県工業教育紀要第61号			
	主 内 容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和6年度研究収録			
	冊 数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 6 年度事業計画（案）

（見学会・講習会の部）

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	10月～12月			
	場 所	柏崎工業 （当番校）			
	研 究 会 名 称	工業化学 見学会			
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	「 」			
	講 師 職 氏 名				
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名				
	参 加 者 数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		① ⑤			
研究調査	主 要 テ ー マ				
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数				
図書購入	図 書 名 数 冊				
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	新潟県工業教育紀要第61号			
	主 内 容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和6年度研究収録			
	冊 数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 6 年度事業計画（案）

（研究会の部）

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	10月～11月	未 定	10月上旬	9月下旬
	場 所	上越総合技術 高校	新潟県央工業 高校	新潟工業高校	新潟工業高校
	研 究 会 名 称	機械・電子機械 研究会	電気・電子 研究会	建築研究会	土木研究会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	「 」	「 」	「 」	「 」
	講 師 職 氏 名				
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名				
	参 加 者 数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		① ③ ⑦	① ③ ⑦	① ③ ⑦	① ③ ⑦
研究調査	主 要 テ ー マ				
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数				
図書購入	図 冊 書 名 数				
刊 研 行 究 物 成 果 出 版	名 称	新潟県工業教育紀要第61号			
	主 内 容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和6年度研究収録			
	冊 数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 6 年度事業計画（案）

（研究会の部）

部長 長井 英幸

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	8 月 1 日 (木)	1 月中旬		
	場 所	新潟工業高校	長岡工業高校		
	研 究 会 名 称	工業化学 研究会	ロボット技術 研究協議会		
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	北 信 越 工 業 化 学 教 育 研 究 大 会	各ロボット競技 大会報告、 ロボット機構紹介		
	講 師 職 氏 名				
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名				
	参 加 者 数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		① ③ ⑦	① ③ ⑦		
研究調査	主 要 テ ー マ				
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数				
図書購入	図 書 名 数 冊				
刊 研 行 究 物 成 果 出 版	名 称	新潟県工業教育紀要第 6 1 号			
	主 内 容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和 6 年度研究収録			
	冊 数	2 0 0 冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	経済社会の発展を担う商業教育
	期日	令和5年11月24日(金)
	場所	新潟県立村上桜ヶ丘高等学校 村上市内フィールドワーク
	研究会名称	高教県商業部会 ビジネス分野研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「観光ビジネス」を村上で考えよう！ 「鮭・酒・人情」村上のど真ん中「酒」から見る ～村上観光のこれから～
	講師職氏名	大洋酒造株式会社 代表取締役社長 中山 芳則
	研究発表 テーマ・職・氏名	「行政と民間と学校の出来ること」を考える ～新設「観光ビジネス」～ 教諭 安達 恵一
参加者数		9校24名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①、②、③、⑤
研究調査	主要テーマ	なし
	調査の期日 場所・参加者数	なし
図書購入	図書名 冊数	・図解でわかる14歳から学ぶこれからの観光 ・地域引力を生み出す観光ブランドの教科書 ・はじめてでもわかる！自治体職員のための観光政策立案必携 ・「観光まちづくり」のための地域の見方・調べ方・考え方 以上4冊
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名称	新潟県商業教育第59号
	主な内容	研究発表、実践報告、大会報告、研究会報告
	冊数	90冊

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目 的	経済社会の発展を担う商業教育
	期 日	1 1 月中旬
	場 所	県立柏崎総合高等学校
	研 究 会 名 称	未定
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	未定
	講 師 職 氏 名	未定
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	未定
	参 加 者 数	約20名
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		未定
研究調査	主 要 テ ー マ	なし
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	
図書購入	図 書 名 数 冊	未定
刊 行 研 究 物 成 果 出 版	名 称	新潟県商業教育 第60号
	主 内 容	1. 研究論文 2. 実務競技大会報告 3. 専門委員会報告 4. 各種研究会報告 5. 検定試験結果報告と分析 6. その他
	冊 数	約100冊

高教研 水産 部会 令和5年度事業報告書

部長 中田 匠

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展を目指す
	期日	12月4日（月）
	場所	糸魚川市 （海洋高校）
	研究会名称	令和5年度新潟県高等学校教育研究会・水産部会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	水産・海洋教育の充実 「探究学習の事例研究」
	講師職氏名	
	研究発表 テーマ・職・氏名	地域特産品化を目指したキャビア生産に関する研究 海洋高校水産資源科 教諭 岡部泰基 他2テーマ
参加者数	19名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①、③
研究調査	主要テーマ	
	調査の期日 場所・参加者数	
図書購入	図書名 冊数	
刊行物出版	名称	令和5年度 新潟県水産教育研究会
	主な内容	研究成果報告
	冊数	電子データで送信

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 水産部会 令和6年度事業計画（案）

部長 中田 匠

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展を目指す	
	期 日	未定	
	場 所	県立海洋高等学校 (糸魚川市)	
	研 究 会 名 称	新潟県高等学校教育研究会・水産部会	
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	水産・海洋教育の充実 「未定」	
	講 師 職 氏 名	未定	
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	未定	
	参 加 者 数	30名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①、②、③、④	
研究調査	主 要 テ ー マ		
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数		
図書購入	図 書 名 冊 数	未定	
刊 行 物 出 版	名 称	令和6年度 新潟県水産教育研究会	
	主 内 容	研究成果報告	
	冊 数	40冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研家庭科部会令和5年度事業報告書

部長 佐藤 一彦

研究会・講習会等の開催	目 的	家庭科教育の充実と発展	
	期 日	8 月 4 日（金）	
	場 所	高陽荘（上越市）	
	研 究 会 名 称	全県講習会	
	研 究 会 テ ー マ 「 講 演 テ ー マ 」	1 講演 「認知症サポーター養成講座について」 2 講演 「ねえねえ、上越野菜って知ってる!？」 ～子どもから大人へ伝える次世代の食育と 地域農業が果たす役割～	
	講 師 職 氏 名	1 講演 上越市社会福祉協議会 白倉 由利枝 様 喜多山 恵称 様 2 講演 JAえちご上越あるるん畑店長 亦野 潤一 様	
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名		
参 加 者 数	2 4 人		
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		① ②	
研究調査	主 要 テ ー マ		
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数		
購入書	図 書 名 冊 数		
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	家庭科研究第59号	
	主 内 容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊 数	130冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研家庭科部会令和6年度事業計画（案）

部長 佐藤 一彦

研究会・講習会等の開催	目 的	家庭科教育の充実と発展
	期 日	8 月 5 日（月）
	場 所	下越地区（未定）
	研 究 会 名 称	全県講習会
	研 究 会 テ ー マ 「 講 演 テ ー マ 」	未 定
	講 師 職 氏 名	未 定
	研 究 発 表 テ ー マ ・ 職 ・ 氏 名	未 定
	参 加 者 数	30名
研究調査	主 要 テ ー マ	
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	
購 入 書	図 書 名 冊 数	
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	家庭科研究第60号
	主 内 容	講習会・研究協議・会員の研究など
	冊 数	130冊

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目 的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期 日	12月1日（金）	10月25日（水）
	場 所	アトリウム長岡	新潟県健康づくり・スポーツ 医科学センター （ハイブリッド方式）
	研 究 会 名 称	保健体育部会全県研究会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	1 「休日の部活動の地域移行の現状について」 2 「しくじり監督 俺みたいになるな～パワハラ指導に陥らないために」	「困難を抱える生徒・保護者との対話的な関わりについて」
	講 師 職 氏 名	1 新潟県教育庁 保健体育課 部活動改革担当 副参事 桑原 文博 様 2 流通経済大学 松井 英幸 様	東京学芸大学 准教授 福井 里江 様
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名		
参 加 者 数		32名	108名
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①②③	①②③
研究調査	主 要 テ ー マ	なし	
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	なし	
図 購 入 書 冊	図 書 名 冊 数	なし	
研究 成果 刊 行 物 の 出 版	名 称	研究集録 第59集	
	主 内 容	研究会、講演会の内容収録	
	冊 数	0部・・・HPに掲載	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 保健体育部会 令和6年度事業計画（案）

部長 武藤 俊昭

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期 日	未定	未定
	場 所	未定	未定
	研 究 会 名 称	保健体育部会全県研修会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	検討中	検討中
	講 師 職 氏 名	検討中	検討中
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	検討中	検討中
	参 加 者 数	約50名	約100名
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		未定	未定
研究調査	主 要 テ ー マ	なし	
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	なし	
図 購 書 入	図 書 名 数 冊	なし	
刊 行 物 の 出 版 研究成果	名 称	研究集録 第60集	
	主 内 容	研究会、講演会の内容収録	
	冊 数	0部・・・HPに掲載	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 情報部会 令和5年度事業報告書

部長 吉川 保

研究会・講習会等の開催	目 的	情報科教育の充実と発展	
	期 日	7月28日（金）	11月30日（木）
	場 所	下越地区 （Web会議）	上越地区 （Web会議）
	研 究 会 名 称	情報教育研究会	全県研究協議会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	情報教育の課題 「生成AIの台頭～ChatGPTの 教育現場へのインパクト～」	情報教育の課題 「大学入学共通テスト『情報 I』ではかる資質・能力とは」
	講 師 職 氏 名	学校法人電子開発学園 メディア教育センター 岩佐 剛	独立行政法人 大学入試センター 試験問題調査官 水野 修治
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	教科「情報I」の授業実践につ いて 新潟中央高等学校 教諭 佐田 裕之	情報教育の学習評価の方法 東京都立三鷹中等教育学校 指導教諭 能城 茂雄
	参 加 者 数	26名	42名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①、②、③	①、②、③
研究調査	主 要 テ ー マ	情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための資質・能力の育成	
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	県内高等学校	
購入書	図 書 名 冊 数	第16回全国高等学校情報教育研究会全国大会（オンライン大会） 発表資料集 1冊	
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	「情報教育研究集録」第2号	
	主 内 容	会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容	
	冊 数	情報部会 HP 掲載	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 情報部会 令和6年度事業計画（案）

部長 吉川 保

研究会・講習会等の開催	目的	情報科教育の充実と発展	
	期 日	7 月（予定）	10 月（予定）
	場 所	下越地区 (We b 会議)	中越地区 (We b 会議)
	研 究 会 名 称	情報教育研究会	全県研究協議会
	研 究 会 テ ー マ 「 講 演 テ ー マ 」	情報教育の課題 「大学入学共通テストを意識した情報Ⅰの授業実践（仮）」	情報教育の課題 「情報通信ネットワークとデータの活用から考える情報教育（仮）」
	講 師 職 氏 名	(未定)	(未定)
	研 究 発 表 テ ー マ ・ 職 ・ 氏 名	大学入試を見据えた情報教育の実践 県内・県外情報科担当教諭等	身近なものを題材にした授業実践 県内・県外情報科担当教諭等
参 加 者 数		50 名（予定）	50 名（予定）
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①，②，③	①，②，③
研究調査	主 要 テ ー マ	情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための資質・能力の育成	
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	県内高等学校	
図書購入	図 書 名 冊 数	第 17 回全国高等学情報教育研究会全国大会 発表資料集等	
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	「情報教育研究集録」	
	主 内 容	会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容	
	冊 数	情報部会HP掲載予定	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 生徒指導部会 令和5年度事業報告書

部長 吉川 保

研究会・講習会等の開催	目 的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽
	期 日	令和5年11月17日(金)
	場 所	県立巻高等学校
	研 究 会 名 称	全県研究協議会
	研 究 会 テ ー マ 「 講 演 テ ー マ 」	「生徒の伸長と発達を支える生徒指導」 ～ 生徒一人一人の自己実現を目指して ～ 講演 「『生徒指導提要』改定の背景とこれをふまえたこれからの生徒指導の方向性」
	講 師 職 氏 名	国立教育政策研究所 総括研究官 高橋 典久 様
	研 究 発 表 テ ー マ ・ 職 ・ 氏 名	なし
参 加 者 数		76名 (オンラインでの参加者を含む)
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①, ②, ⑦
研究調査	主 要 テ ー マ	「生徒の健全な学校生活を保障し、主体性を大切にする校則のあり方」 「生徒一人一人に寄り添う特別支援と生徒支援のあり方」 「生徒の困り感や不安感を受け止めることのできる学校作りのあり方」
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	テーマ別に分かれての研究協議 場所：県立巻高等学校等 34名
図書購入	図 書 冊 数	なし
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	生徒指導部会誌 第56号
	主 内 容	研究内容・資料・部会活動報告
	冊 数	350冊

① 専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 生徒指導部会 令和6年度事業計画書（案）

部長 吉川 保

研究会・講習会等の開催	目 的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽
	期 日	令和6年11月8日(金)
	場 所	県立巻高等学校
	研 究 会 名 称	全県研究協議会
	研 究 会 テ ー マ 「 講 演 テ ー マ 」	「生徒の伸長と発達を支える生徒指導」 ～ 生徒一人一人の自己実現を目指して ～ 講演 未定
	講 師 職 氏 名	未定
	研 究 発 表 テ ー マ ・ 職 ・ 氏 名	なし
参 加 者 数		50名程度（オンラインでの参加者を含む）
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①, ②, ⑦
研究調査	主 要 テ ー マ	「交通指導、校則に関する指導等」 「特別支援と生徒支援のあり方」 「学校作りのあり方」 (仮)
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	テーマ別に分かれての研究協議 場所：県立巻高等学校等 20 名
図書購入	図 冊 書 名 数	なし
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	生徒指導部会誌 第57号
	主 内 容	研究内容・資料・部会活動報告
	冊 数	350冊

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 図書館 部会 令和5年度事業報告書

部長 菊池 啓一

研究会・講習会等の開催	目的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導あり方 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方
	期 日	9月22日（金）
	場 所	新潟ユニゾンプラザ
	研 究 会 名 称	総会・講演会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	総会・講演会
	講 師 職 氏 名	杉山和芳様 東京都立立川国際中等教育学校 図書館司書
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	探究的な学びの場としての学校図書館 （東京都立立川国際中等教育学校 図書館司書杉山和芳様）
	参 加 者 数	22名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①
研究調査	主 要 テ ー マ	図書館運営に関するアンケート
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	総会・講演会において持参・協議
購入図書	図 書 名 冊 数	なし
刊 行 物 成 果 研 究 成 果 物 質 出 版	名 称	「図書館部報」第67号
	主 内 容	研究会・総会報告・研究会等参加報告、研究論文等
	冊 数	180冊

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 図書館 部会 令和6年度事業計画（案）

部長 菊池 啓一

研究会・講習会等の開催	目的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導のあり方 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方
	期 日	未定
	場 所	新潟ユニゾンプラザ
	研 究 会 名 称	総会・講演会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	未定
	講 師 職 氏 名	未定
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	未定
	参 加 者 数	未定
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①
研究調査	主 要 テ ー マ	図書館運営に関する事前アンケート
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	総会・講演会において持参・協議
購入書	図 書 名 冊 数	未定
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	『図書館部報』第68号
	主 内 容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等
	冊 数	180冊

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 視聴覚部会 令和5年度事業報告

部長 須藤 浩

研究会・講習会等の開催	目 的	視聴覚に関わる諸活動を通して、教職員が、実践力を備えたメディアリテラシーを獲得することで、生徒の課題解決能力向上を促すための指導力を身につける。							
	期 日	4月30日	4月29日	6月13日	8月8日	11月12日	12月15日	1月8日	3月23日
	場 所	新潟市・新潟明訓高等学校	長岡市・長岡工業高等学校	長岡市 長岡リックホール	新潟市 新潟明訓高等学校	新潟市 新潟明訓高等学校	新潟市 NST 新潟放送	長岡市 まちなかキャンパス 長岡	新潟市 新潟明訓高等学校
	研 究 会 名 称	新潟・下越地区初心者講習会	上越・中越地区初心者講習会	新潟県高校放送コンテスト 主催事業	夏期講習会	QK杯校内放送コンクール 共催事業	視聴覚技術研修会・総会	放送技術者冬期講習会	放送技術者春期講習会 研修会
	研 究 会 テーマ「講演テーマ」	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	コンテストの評価方法	アナウンス・朗読部門の指導方法	コンテストの評価方法	番組制作・報道技術に関する現場見学	北信越大会に向けた読みの実践的指導方法	NHK杯に向けた番組の実践的指導方法 放送・視聴覚技術の指導方法
	講師職氏名	高文連専門部役員	高文連専門部役員	NHK専門職ディレクターアナウンサー	高文連専門部役員	NHK専門職ディレクターアナウンサー	民間放送局アナウンサー	高文連専門部役員	高文連専門部役員 外部講師
	研究発表テーマ・職氏名								
	参加者数	13人	6人	17人	15人	14人	7人	9人	15人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	②指導法 ③実習・講習	①専門分野	②指導法 ⑤見学会 ⑦講習	②指導法 ③実習・講習	②指導法 ③実習・講習
調 査 研 究	主 要 テーマ	第46回校内放送指導者講座							
	調査の日程・場所・参加者数	12月27日（水）～28日（木） 東京都千代田放送会館及びオンライン開催 現地参加2人、オンライン参加6人							
購 入 図 書	図 書 名 冊 数								
刊 行 物 出 版	名 称	「視聴覚教育研究第61号」							
	主 内 容	実践研究報告 令和5年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約							
	冊 数	40冊							

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 視聴覚部会 令和6年度事業計画

部長 須藤 浩

研究会・講習会等の開催	目 的	視聴覚に関わる諸活動を通して、教職員が、実践力を備えたメディアリテラシーを獲得することで、生徒の課題解決能力向上を促すための指導力を身につける。							
	期 日	4月29日	5月中旬	6月11日	8月18日 ～19日	11月10日	11月下旬	1月13日	3月16日
	場 所	長岡市 中越高等学校	長岡市 長岡農業 高等学校	長岡市 長岡リリッ クホール	長岡市 長岡温泉湯 元館	新潟市 新潟明訓 高等学校	新潟市内 民間放送局	長岡市 まちなかキ ャンパス長 岡	新潟市 新潟明訓 高等学校
	研究会 名 称	新潟・下越 地区、上越 中越地区初 心者講習会 (合同開催)	春の視聴 覚講習会	新潟県高 校放送コン テスト主 催 事 業	夏期講習会	Q K杯校内 放送コンク ール 共 催 事 業	視聴覚技術 研修会・総 会	放送技術者 冬期講習会	放送技術者 春期講習会 研修会
	研究会 テーマ 「講演 テーマ」	基礎的な 放送・視 聴覚技術 に関する 指導方法 の習得	記録写真 撮影の基 礎	コンテスト の評価 方法	Q K杯校内 放送コン クールに 向けた 読み番組 の実践的 指導方法	コンテスト の評価 方法	番組制作 報道技術 に関する 現場見学	北信越大会 に向けた 読み番組 の実践的 指導方法	N H K 杯 に向けた 読み番組 の実践的 指導方法
	講師職 氏 名	高文連専門 部役員	元教員	N H K 専門職 ディレクター アナウンサー	高文連専門 部役員	N H K 専門職 ディレクター アナウンサー	民間放送局 ディレクター アナウンサー	高文連専門 部役員	高文連専門 部役員
	研究発 表テーマ・ 職・氏名								
	参加 者数	20人	10人	20人	15人	20人	10人	10人	15人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複 数選択可。主となるテー マを先頭に		②指導法 ⑦実習・講 習	②指導法 ⑦実習・講 習	①専門分野	②指導法 ③実習・ 講習	①専門分野	②指導法 ⑤見学会 ⑦講習	②指導法 ③実習・講 習	②指導法 ③実習・講 習
研究 調査	主 要 テーマ	第47回校内放送指導者講座							
	調 査 の 期日 場所・参 加者数	12月下旬 東京都千代田放送会館 現地2人、オンライン5人程度							
図 書	図書名 冊 数								
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	「視聴覚教育研究第62号」							
	主 な 内 容	実践研究報告 令和6年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約							
	冊 数	40冊							

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研定通部会 令和5年度事業報告

部長 小林 麻利子

研究会・講習会等の開催	目 的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期 日	令和5年7月31日（月）	令和5年11月22日（水）
	場 所	パストラル長岡	県立新潟翠江高等学校
	研 究 会 名 称	令和5年度新潟県高等学校定時制通信制教育総合研究会新潟県高等学校通信制教育研究会	令和5年度新潟県高等学校定時制通信制教育研究協議会情報交換会
	研 究 会 テ ー マ 「 講 演 テ ー マ 」	「子どもたちの命を支えるために」	県内定時制通信制高等学校情報交換会
	講 師 職 氏 名	上越教育大学大学院 学校教育研究科 講師 寺戸 武志 様	
	研 究 発 表 テ ー マ ・ 職 ・ 氏 名	研究発表① ①「遠隔授業が拓く離島小規模校教育の未来」 県立佐渡高等学校相川分校 講師 神主 和人 ②「進路指導の効率化を目指して～タブレット端末の活用実践～」 長岡英智高等学校 教諭 相田 千賀子	①定時制教務 ②通信制教務 ③生徒指導 ④進路指導
参 加 者 数		99人	県内定時制・通信制課程を置く高等学校11校(41人)
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		②③④	②④
研究調査	主 要 テ ー マ	先進校視察（教育課程、進路指導など）	
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	期 日 令和5年8月28日（月）、29日（火） 視察校 愛知県立城北つばさ高等学校、愛知県立刈谷東高等学校（計2校） 視察者 県立荒川高等学校 教諭、県立出雲崎高等学校 教諭（計2人）	
図書購入	図 冊 名 数		
刊 行 物 出 版	名 称	実践集録 60号	
	主 内 容	令和5年度新潟県高等学校定時制通信制教育総合研究会 新潟県高等学校通信制教育研究会報告 他	
	冊 数	300冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研定通部会 令和6年度事業計画（案）

部長 小林 麻利子

研究会・講習会等の開催	目 的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期 日	令和6年7月29日（月）	令和6年11月20日（水）
	場 所	ホテル イタリア軒	県立高田南城高等学校
	研 究 会 名 称	令和6年度新潟県高等学校定時制通信制教育総合研究会新潟県高等学校通信制教育研究会	令和6年度新潟県高等学校教育研究会定通部会情報交換会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進 情熱と使命感あふれる教育活動の創造 「（未定）」	県内定時制通信制高等学校情報交換会
	講 師 職 氏 名	未定	
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	①テーマ未定 県立長岡明德高等学校 教諭 ②テーマ未定 県立十日町高等学校 教諭	①教務 ②生徒指導 ③進路指導（予定）
	参 加 者 数	120人	40人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		②③④	①②⑤⑥
研究調査	主 要 テ ー マ	県外先進校視察（教育課程、生徒指導、特別支援教育など）	
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	未定	
図書購入	図 書 名 数 冊		
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	実践集録 61号	
	主 内 容	上記定時制通信制教育総合研究会報告 等	
	冊 数	300冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

令和5年度新潟県高等学校教育研究会理事会（書面審議）録

<理事会書面審議>

5月19日（金）

- ・「令和5年度 高教研理事会」書面審議資料をメールにて送付

6月1日（木）

- ・令和5年度新潟県高等学校教育研究会に係る審議事項の結果について下記により（報告）

記

高 教 研 第 7 号
令和5年6月1日

県高等学校教育研会
役 員 様

県高等学校教育研究会会長
県立新潟南高等学校長
横 堀 真 弓

令和5年度新潟県高等学校教育研究会に係る
審議結果報告および運営に係る連絡

日頃より、当会の運営に御協力いただき感謝申し上げます。
さて、標記について御報告するとともに、本年度の運営に関し連絡申し上げます。

- 1 令和5年度新潟県高等学校教育研究会に係る審議事項について
理事会において御審議いただきありがとうございました。令和5年度の審議事項につきましては、次のようになりましたので御報告いたします。

<審議結果>

- | | | |
|----|---------------|----|
| 1. | 令和4年度事業報告 | 承認 |
| 2. | 令和4年度決算報告 | 承認 |
| 3. | 令和5年度役員（案） | 承認 |
| 4. | 令和5年度委員および会員数 | 承認 |
| 5. | 令和5年度事業計画（案） | 承認 |
| 6. | 令和5年度予算（案） | 承認 |

令和5年度の活動から

1 研究会等

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、対面で開催した部会が多くなりました。また、対面とオンラインのハイブリッドで実施するなど、各部会の特色や現状に応じて研究会（講習会・見学会・発表等）が実施されました。詳細については一覧を御覧ください。

2 研究助成等に関して

近年は会員数の減少傾向が続いております。それに伴う会費収入の減少のため、予算は厳しい状況が続いています。このような状況の中で一般財団法人新潟県教職員厚生財団様及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部様からは、多額の助成をいただいております。紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

3 会の運営について

(1) 高教研ホームページについて

平成26年8月に開設した高教研ホームページですが、各部会から積極的に御活用いただけるよう取り組んでおります。各部会の事業の内容や研究成果及び刊行物等を掲載し、部会の研究成果を広く発信するなど、ホームページの活用をお願いいたします。また事務局におきましても、郵送コスト圧縮のために、メールとホームページを積極的に活用して経費を節減しております。各種様式をホームページからダウンロードすることで、各部会等との連携強化と運営の効率化を図っています。今後も有効に活用くださるようお願いします。

新潟県高等学校教育研究会ホームページ	http://www.kokyoken.nein.ed.jp/
--------------------	---

(2) 会員募集方法について

加入申込については、電子メールによる申込とし、また、入会費の納入に係る「振込依頼書」は郵送にてお届けしました。次年度に向け、申込み方法や期限などを明確にお伝えできるよう改善していきたいと考えております。

年度始めの御多用の中、各校において当会への加入に係るお声がけや加入申込み業務を行っていただき感謝申し上げます。

(3) 会計取扱要領について

会計の適正な執行及び透明性確保の観点から、平成29年度に「部会会計取扱要領」を定め施行しています。これに則り、適切な運用に御協力いただき感謝申し上げます。

今後、各部会のよりよい運営といった観点で、「部会会計取扱要領」等について見直し改善を進めていきたいと考えています。

4 高教研の活性化について

令和5年度から「研修履歴の記録の作成」と、当該履歴を活用した資質向上に関する校長等による「対話に基づく受講奨励」が始まりました。このことから今後高教研果たす役割は大きいと思います。

各部会におかれましては、時代に即した研究や協議を深めていただくとともに、その成果・情報を年報や高教研ホームページ等も活用しながら広く発信いただき、多くの先生方への加入に繋げていただければと思います。

（文責・幹事：新潟南高等学校 教頭 佐藤 俊）

令和５年度 収支決算書

収入の部

区 分	当初予算額(a)	最終予算額	決算額(b)	比較増減(b-a)	摘 要
会 費	2,780,000		2,798,000	18,000	年額一人¥2,000×1,390人（追加会員¥2,000×9人）
助 成 金	650,000		825,000	175,000	厚生財団(40万円)・教育公務員弘済会(25万円)
雑 収 入	0		95,049	95,049	(当初)外部団体から部会へ補助（数学1万円・家庭1.5万円・視聴覚4万円・定通11万円） 英語部会(R4 決算後返金95,000円)、本部利息(39円)、芸術(1円)、農業(5円)、 生徒指導(2円)、図書(1円)、視聴覚(1円)
前期繰越金	110,382		110,382	0	事務局関係費・予備費繰越
繰越金 (積立含む)	7,151,295		7,151,295	0	
合 計	10,691,677		10,979,726	288,049	

支出の部

I 部会別

区 分	当初予算額 (積立金を含む)	最終予算額(a) (積立金を含む)	決算額(b)	次年度積立金 (a-b)	摘 要					備 考
					研究大会	研究調査	研究図書	研究成果刊行	その他	
1. 国 語	433,850	433,850	192,209	241,641	50,471	4,238	0	137,500	0	
2. 地歴公民	376,463	376,463	310,796	65,667	213,556	0	0	97,240	0	
3. 数 学	1,103,793	1,103,793	427,677	676,116	349,077	0	0	78,600	0	(当初)外部団体補助 金(¥10,000)
4. 理 科	747,616	747,616	263,080	484,536	142,960	0	0	120,120	0	
5. 芸 術	505,173	505,174	225,107	280,067	223,699	0	0	0	1,408	利息(¥1)
6. 英 語	2,087,732	2,182,732	676,814	1,505,918	412,127	2,963	0	0	261,724	前年度協賛金(¥15,000)スピー チコンテスト参加費(80,000)
7. 農 業	462,598	462,603	271,827	190,776	169,157	0	0	102,670	0	利息(¥5)
8. 工 業	654,536	654,536	272,842	381,694	120,682	2,160	0	150,000	0	
9. 商 業	169,000	169,000	169,000	0	69,650	0	9,350	90,000	0	
10. 水 産	312,714	312,714	0	312,714	0	0	0	0	0	
11. 家 庭 科	548,000	548,000	263,000	285,000	163,550	0	0	99,450	0	(当初)外部団体補助 金(¥15,000)
12. 保健体育	872,331	872,331	204,359	667,972	204,359	0	0	0	0	
13. 情 報	303,272	303,272	20,682	282,590	18,482	0	2,200	0	0	
14. 生徒指導	609,427	609,429	228,547	380,882	95,777	0	0	132,770	0	利息(¥10)
15. 図 書 館	514,249	514,250	243,455	270,795	152,155	0	0	91,300	0	利息(¥1)
16. 視 聴 覚	262,878	262,879	169,692	93,187	17,252	96,040	16,400	40,000	0	(当初)NHK助成金 (¥40,000)利息(¥1)
17. 定 通	677,663	677,663	508,382	169,281	241,854	114,288	0	152,240	0	(当初)外部団体補助 金(¥110,000)
本部関係	105,382	105,382	97,202	8,180	0	0	0	0	97,202	
予備費	120,000	138,039	0	138,039	0	0	0	0	0	(最終)本部利息(¥39) 追加会費(¥18,000)
合 計	10,866,677	10,979,726	4,544,671	6,435,055	2,644,808	219,689	27,950	1,291,890	360,334	

II 費目別

区分	当初予算額	最終予算額(a)	決算額(b)	次年度積立金(a-b)	摘要
1. 研究大会費	3,484,118	3,484,118	2,644,808	839,310	
謝金	799,266	799,266	603,350	195,916	
旅費	669,160	669,160	432,030	237,130	
使用料及び賃借料	890,550	890,550	952,805	△ 62,255	会場使用料・設備使用料等
資料費	344,778	344,778	131,346	213,432	
通信運搬費	543,030	543,030	366,479	176,551	送料, 手数料等
賃金	60,000	60,000	77,286	△ 17,286	
会議費	177,334	177,334	81,512	95,822	茶, 茶菓子等
2. 研究調査費	438,000	438,000	219,689	218,311	
資料費	153,000	153,000	52,903	100,097	
通信運搬費	187,000	187,000	114,288	72,712	
会議費	98,000	98,000	52,498	45,502	
3. 研究図書購入費	80,600	80,600	27,950	52,650	
4. 研究成果刊行費	1,755,000	1,755,000	1,291,890	463,110	
5. その他	4,570,863	4,570,863	263,132	4,307,731	
6. 本部関係費	88,601	88,601	97,202	△ 8,601	
事務費	22,221	22,221	35,822	△ 13,601	送料, 手数料
会議費	5,000	5,000	0	5,000	
刊行費	61,380	61,380	61,380	0	R4年度製本代
7. 予備費	120,000	132,047	0	132,047	※当初予算額からの変動分を調整 (利息: 本部¥39 追加会員¥18,000)
合計	10,537,182	10,549,229	4,544,671	6,004,558	

収入決算額 10,979,726

支出決算額 4,544,671

次年度繰り越し 6,435,055 (各部会次年度積立金含む)

令和5年度 高等学校教育研究会役員

会 長		横堀 真弓 新潟南							
副 会 長		小竹 聖一 新潟中央				灰野 正宏 新発田			
		鈴木 勇二 長 岡				山田 喜昭 高 田			
		森川 幸彦 佐 渡							
顧 問		小川 正樹 新 潟							
部 会									
No.	部 会 名	部 長	副 部 長						部会幹事
1	国語	萱森 茂樹 燕中等	小林 靖明 新潟中央	坂元 淳子 白根	千葉 知樹 荒川	川上 豪 三条東	北岸 信治 柏崎		原 宏志 燕中等
2	地歴公民	早川 勝志 糸魚川	高見 由光 中条	佐藤 浩 吉田	鈴木 健一 十日町	川合 克彦 有恒	植木 勲 直江津中等		中村 崇志 長岡大手
3	数学	小林 英明 新津	伊皆 嘉樹 豊栄	南方 伸之 小出	関口 和之 津南中等	奥田 優 新井	夏見 康彦 糸魚川白嶺		荒川 理果 新津
4	理科	伊藤 大助 阿賀黎明	岩崎 啓 新潟向陽	本保 正佳 見附	遠藤 浩 国際情報	今井 亮二 松代			永嶋 恵 阿賀黎明
5	芸術	小堺 さとみ 新津南	永井 昭光 新潟西	小野 由紀子 吉田	長津 綾子 直江津中等				(音)高野めぐみ 新潟中央 (美)中條由美 上越総合技術 (書)松本直美 新潟
6	英語	石積 希 高田商業	鈴木 綾乃 新潟向陽	平山 剛 村上	名川 由里子 川西高等特別支援	吉田 桃子 正徳館	白藤 恵一 佐渡中等		長谷川 誠 高田
7	農業	椎谷 一幸 加茂農林	村山 英司 新発田農業	村山 和彦 長岡農業	阿部 慎 高田農業				渡辺 秀明 加茂農林
8	工業	長井 英幸 長岡工業	住吉 宏 新津工業	松原 直樹 新潟県央工業	増田 てつ志 上越総合技術				姉崎 健史 長岡工業
9	商業	小畑 智嗣 新潟商業	大島 博文 長岡商業	石積 希 高田商業	須戸 修 新発田商業				加藤 伸泰 村上桜ヶ丘
10	水産	中田 匠 海洋	山崎 勇 海洋						井上 悠太 海洋
11	家庭	佐藤 一彦 長岡大手	小林 麻利子 新潟翠江	丸山 綾子 見附	長浜 力也 八海				田中 郁子 長岡大手
12	保健体育	武藤 俊昭 十日町	岩井 智幸 新発田南	志田 哲也 長岡明德	水野 宏志 小千谷	樋口 猛 長岡向陵	池 裕司 十日町		亀山 和輝 新発田
13	情報	吉川 保 巻	小林 皇司 十日町総合	保坂 哲 高田北城	一本鎗 裕 県央工業	竹内 努 小千谷西			関川 裕介 新潟江南
14	生徒指導	吉川 保 巻	石山 崇 村松	千葉 知樹 荒川	徳永 和教 三条商業	阿部 慎 高田農業			片桐 聡子 巻
15	図書館	菊池 啓一 塩沢商工	森川 幸彦 佐渡	須戸 修 新発田商業	夏見 康彦 糸魚川白嶺				戸田 美由起 塩沢商工
16	視聴覚	須藤 浩 六日町	夏見 康彦 糸魚川白嶺						野村 信夫 長岡農業
17	定通	小林 麻利子 新潟翠江	藤本 洋則 開志学園	千葉 知樹 荒川	志田 哲也 長岡明德	諸橋 孝二 高田南城	森川 幸彦 佐渡		上村 正子 新潟翠江(定)
会計監査委員		梅田 均 新潟商業	見田 雅史 市立明鏡	浦部 頼之 新潟東	(敬称略)				
事務局 (新潟南)		佐藤 俊							



は役員交代及び新規役員

部会幹事および部会員数

No.	部 会 名	部 会 幹 事		会員数	No.	部 会 名	部 会 幹 事		会員数
1	国 語	原 宏志	燕中等	131	8	工 業	姉崎 健史	長岡工業	110
2	地 歴 公 民	中村 崇史	長岡大手	122	9	商 業	加藤 伸泰	村上桜ヶ丘	66
3	数 学	荒川 理果	新 津	196	10	水 産	井上 悠太	海 洋	87
4	理 科	永嶋 恵	阿賀黎明	163	11	家 庭	田中 郁子	長岡大手	107
5	芸 術	(音)高野めぐみ	新潟中央	52	12	保 健 体 育	亀山 和輝	新発田	107
		(美)中條 由美	上越総合技術		13	情 報	関川 裕介	新潟江南	67
		(書)松本直美	新 潟		13	生 徒 指 導	片桐 聡子	巻	180
6	英 語	長谷川 誠	高 田	209	14	図 書 館	戸田 美由起	塩沢商工	55
7	農 業	渡辺 秀明	加茂農林	131	15	視 聴 覚	野村 信夫	長岡農業	17
					16	定 通	上村 正子	新潟翠江(定)	126

会計監査委員

新潟商業	市立明鏡	新潟東
梅田 均	見田 雅史	浦部 頼之

事務局幹事

新潟南
佐藤 俊

委員及び会員数

地区	学番	学校名	委員氏名	人数	地区	学番	学校名	委員氏名	人数	地区	学番	学校名	委員氏名	人数	
新潟	1	新潟	羽二生 大輔	42	長岡	32	長岡	杉山 礼	14	柏崎	61	柏崎	阿部 英敬	19	
	2	新潟中央	貝田 智子	30		33	長岡大手	内川 未奈希	22		62	柏崎常盤	永井 大円	9	
	3	新潟南	佐藤 俊	10		34	長岡向陵	樋口 猛	9		63	柏崎総合	徳永 美智子	7	
	4	新潟江南	小日向 史	11		35	長岡明德	鈴木 和也	12		64	柏崎工業	富田 紀男	8	
	5	新潟西	永井 昭光	10		36	長岡農業	熊木 秀徳	30		65	出雲崎	安澤 和晃	5	
	6	新潟東	浦部 頼之	12		37	長岡工業	林 芳隆	11	私14	新潟産大付属	高倉 聡	9		
	7	新潟北	松縄 恒彦	6		38	長岡商業	川上 史人	8	中等2	柏崎翔洋中等	佐藤 貴亮	12		
	8	新潟工業	丸山 祐作	25		39	正徳館	吉田 桃子	2	上越	66	高田	志賀 大介	20	
	9	新潟商業	山中 政一	22		40	栃尾	柳澤 裕一	11		66	高田 安塚分校	滝澤 祐樹	2	
	10	新潟向陽	鈴木 綾乃	15		41	見附	本保 正佳	6		67	高田北城	馬場 隆史	16	
	11	新潟翠江(定)	上村 正子	11		特3	長岡豊	三村 陽子	3		68	高田南城(定)	金山 朋宏	5	
	11	新潟翠江(通)	小林 賢史	6		私9	帝京長岡	小熊 牧久	10		68	高田南城(通)	児玉 悟	3	
	12	巻	河内 一修	20		私10	中越	竹内 拓	14		69	高田農業	緒形 忠大	24	
	13	巻総合	波多野 隆	21		私19	長岡英智	今井 基也	16		70	上越総合技術	矢代 譲	20	
	14	豊栄	渡邊 幸晴	5		三	42	三条	鈴木 信行		18	71	高田商業	青山 淳	4
	15	新津	真貝 康広	17			43	三条東	早川 昌		8	72	久比岐	矢坂 英也	2
	16	新津工業	小池 茂樹	12			44	新潟県央工業	一本鎗 裕		14	73	有恒	安井 真	3
	17	新津南	富樫 亮	5			45	三条商業	杵鞭 義孝		5	74	新井	西川 昌宏	6
18	白根	横山 泰充	3	46	吉田		小野 由紀子	4	75		糸魚川	太田 修	5		
市1	万代	鹿俣 譲	24	47	分水		佐藤 直之	5	76		糸魚川白嶺	馬場 宏	6		
市2	明鏡	見田 雅史	6	48	加茂		清水 秀樹	5	77	海洋	山崎 勇	18			
市中等1	高志中等	竹内 滋之	11	49	加茂農林		高橋 康一	32	中等5	直江津中等	長津 綾子	12			
特1	新潟よつば学園	榎本 信幸	1	中等3	燕中等		加藤 朋之	15	私15	上越	木下 幸彦	8			
特15	東新潟特別支援	細川 顕司	3	私11	加茂暁星		坂田 洋史	5	私16	関根学園	西嶋 俊文	12			
私1	新潟明訓	内野 信昭	72	特20	吉田特別支援		片桐 隆	2	佐渡	78	佐渡	本間 康一	13		
私2	北越	船木 和久	24	魚沼	50		小千谷	水野 宏志		8	78	相川分校	中村 公紀	1	
私3	新潟青陵	佐藤 宏欣	14		51		小千谷西	竹内 努		11	79	羽茂	柿崎 宏行	5	
私5	敬和学園	浅妻 和章	1		52	堀之内	藤岡 英之	7		80	佐渡総合	徳永 伸英	21		
私6	新潟第一	宮田 佳則	16		53	小出	行方 美幸	5		中等6	佐渡中等	加藤 一巳	11		
私7	東京学館新潟	曾我 秀哉	56		54	国際情報	笠原 正博	11	行政	行2	県立教育センター		20		
私8	日本文理	星野 透	13		55	六日町	内山 崇	6			行政(県庁内各課)		34		
私17	開志学園	小嶋 健慈	4		56	八海	渡邊 修二	5							
五	19	五泉	櫻井 武史		6	57	塩沢商工	荻野 美和子		10					
	20	村松	荒井 美鈴		5	58	十日町	鈴木 健一		10					
	21	阿賀黎明	南部 泰正		3	58	松之山分校	山本 寛	2	合計				1399	
	22	新発田	斎藤 直人		19	59	十日町総合	瀧澤 琢也	13						
	23	西新発田	入倉 哲志		7	60	松代	佐藤 一正	5						
	24	新発田南	澁谷 亮輔		29	中等4	津南中等	宮澤 雅樹	7						
	25	新発田農業	沢田 貴博	19	特6	川西特別支援	名川 由里子	1							
	26	新発田商業	佐藤 直人	4											
	27	村上	吉田 昌生	5											
	28	村上桜ヶ丘	加藤 伸泰	14											
	29	荒川	関澤 徹	4											
	30	中条	高見 由光	4											
	31	阿賀野	三本 朗子	3											
田	特8	村上特別支援	田中 雅広	1											
	私12	新発田中央	佐藤 秀夫	11											
	私13	開志国際	和泉 哲三	3											
	中等1	村上中等	近藤 美津子	8											

新潟県高等学校教育研究会規約

第1章 総 則

- 第1条 この会は、新潟県高等学校教育研究会といい、事務局を会長在任校におく。
- 第2条 この会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的とする。
- 第3条 この会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。
1. 高等学校教育に関する調査研究
 2. 研究協議会・講習会・講演会・展覧会等の開催、研究誌・機関紙の発行
 3. 会員の研究に対する援助
 4. その他この会の目的達成に必要な事項

第2章 組 織

- 第4条 この会は、新潟県にある高等学校の教職員およびこれに準ずるもので組織し、次の部会をおく。
- | | | |
|-----------|--------------|------------|
| 1. 国語部会 | 2. 地理歴史・公民部会 | 3. 数学部会 |
| 4. 理科部会 | 5. 芸術部会 | 6. 英語部会 |
| 7. 農業部会 | 8. 工業部会 | 9. 商業部会 |
| 10. 水産部会 | 11. 家庭科部会 | 12. 保健体育部会 |
| 13. 情報部会 | 14. 生徒指導部会 | 15. 図書館部会 |
| 16. 視聴覚部会 | 17. 定通部会 | |

第3章 機 関

- 第5条 この会は、次の機関をおく。
1. 理事会
 2. 委員会
 3. 部長会
 4. 部会委員会
- 第6条 理事会は、この会の決定機関であつて、次のことを決める。
1. 規約の決定並びに改正に関すること。
 2. 事業計画に関すること。
 3. 予算の決定、決算の承認に関すること。
 4. 財産および基金の処分に関すること。

5. 役員の決定に関すること。
 6. 他団体への加入脱退に関すること。
 7. この会の解散に関すること。
 8. その他必要な事項に関すること。
- 第 7 条 理事会は、理事で構成し、毎年開催する。臨時理事会は、会長が必要と認めたとき、会長が招集する。
- 第 8 条 理事には、会長・副会長・各部会の部長 1 名および理事会で必要と認めた若干名になる。
- 第 9 条 委員会は、この会の執行機関であって、次の任務権限を持つ。
1. 理事会から委任された事項の審議執行に関すること。
 2. 理事会に提出する議案に関すること。
 3. 緊急事項の処理に関すること。
- 第 10 条 委員会は、委員で構成し、毎年開催する。臨時委員会は、会長が必要と認めたとき、会長が招集する。
- 第 11 条 委員会の議長は、そのつど構成員の中から選出する。
- 第 12 条 部長会は、連絡機関であって、理事会と各部会および部会相互間の連絡にあたる。
- 第 13 条 委員会および部長会は、委任状を持参した代理人を認める。
- 第 14 条 理事会・委員会・部長会の会議は、構成員の 2 分の 1 以上の出席で成立する。
- 第 15 条 部会委員会は、部長・副部長・部会幹事および校内部会代表をもって構成する。
- 第 16 条 部会委員会は次の任務権限をもつ。
1. 専門的事項について調査研究する。
 2. 専門的事項について委員会に提案する。
 3. 専門的事項についての業務を執行する。
- 第 17 条 部会委員会は、必要に応じ、会長に連絡して、部長が招集する。
- 第 18 条 部会は、必要により、学科または科目別あるいは地区別に分会を設けることができる。
- 第 19 条 部会の細則は、各部会ごとに作成して会長に届け、委員会の承認を得るものとする。

第 4 章 役 員

- 第 20 条 この会には、次の役員をおく。
- | | | | |
|-----------|-------|------------|-------------|
| 1. 会長 | 1 名 | 2. 副会長 | 5 名 |
| 3. 部長 | 各 1 名 | 4. 副部長 | 若干名 |
| 5. 理事 | | 6. 委員 | 各校 1 名 |
| 7. 会計監査委員 | 3 名 | 8. 幹事 | 若干名 |
| 9. 部会幹事 | 各 1 名 | 10. 校内部会代表 | 各校内の部会各 1 名 |
| 11. 顧問 | | | |
- 第 21 条 役員の任務権限は、次の通りである。

1. 会長は、この会を代表し、会務執行の責任を負う。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその任を行う。
3. 部長は、その部会を代表し、部会の業務を統理する。
4. 副部長は、部長を補佐し、部長事故あるときはその任を行い、各地区別部会との連絡にあたる。
5. 理事は第6条によりその任を遂行する。
6. 委員は、各校内の意見を代表し、第9条によりその任を遂行する。
7. 会計監査委員は、会計を監査し、委員会に報告する。
8. 幹事は、この会の事務を処理する。
9. 部会幹事は、各部会の事務を処理する。
10. 校内部会代表は、各校内部会の事務を処理する。
11. 顧問は、会長の諮問に応ずる。

第22条 役員の選出法は、次の通りとする。

1. 会長・副会長・部長・副部長は、理事会で会員の中から推薦し、委員会で承認する。
2. その他の理事は、必要により理事会で推薦し、委員会で承認する。
3. 委員は、各学校から1名選挙する。
4. 会計監査委員は、委員会で互選する。
5. 幹事は、委員会の承認を経て会長が委嘱する。
6. 部会幹事は、各部会の推薦により、会長が委嘱する。
7. 校内部会代表は、各校内部会で互選する。
8. 顧問は、委員会の推薦を経て会長が委嘱する。

第23条 役員の任期は、2年とし、次期改選まではその任を行い、重任してもよい。
欠員の補充で就任した者の任期は、前任者の残りの期間とする。

第5章 会 計

第24条 この会の経費は、会費・補助金・寄付金等による。ただし、寄付金および寄付物件の受理は、委員会の承認を要する。

会費は、毎年5月1日までに各学校ごとに委員がまとめ、部会別会員名簿をそえて事務局に送付するものとする。

第25条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第6章 雑 則

第 26 条 この会に入会しようとするときは、所属部会を明記し、各学校ごとにまとめて、会長に通告する。

第 27 条 この会の規約を実施するに必要な規定は、別に定める。

第 7 章 附 則

第 28 条 この規約は昭和 23 年 10 月 15 日から実施する。

2. 昭和 61 年 6 月 9 日改正施行する。
3. 平成 2 年 6 月 8 日改正施行する。
4. 平成 7 年 5 月 31 日改正施行する。
5. 平成 23 年 6 月 17 日改正施行する。
6. 平成 24 年 6 月 22 日改正施行する。
7. 令和 元年 5 月 27 日改正施行する。
8. 令和 3 年 11 月 1 日改正施行する。

事務局日誌抄

日付

令和5年	4月3日	令和5年度新潟県高等学校教育研究会役員交代・補充について（依頼）	メールにて送付
	4月3日	令和5年度高教研会員募集について	メールにて送付
	4月3日	部会会計の取扱要領について（お知らせ）	メールにて送付
	4月3日	令和5年度高教研会員募集に係る振込依頼書の発送	募集案内校へ郵送
	4月14日	新潟県高等学校教育研究会会計監査委員の派遣について（依頼）	メールにて送付
	4月19日	令和4年度の県高等学校教育研究会会計監査の実施	本校応接室にて開催
	5月9日	公益財団法人 日本教育公務員弘済会新潟支部へ令和5年度「教育研究団体助成事業申請書」の送付	郵送にて申請
	5月9日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団へ「令和4年度団体助成完了報告書」の送付	郵送により報告
	5月17日	高教研年報62号送付	行政、理事宛に郵送
	5月17日	令和5年度高教研名簿の発送	メールにて送付
	5月30日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団より400,000円の助成	
	5月19日	令和5年度高教研理事会審議	書面開催文書（メールにて送付）
	6月1日	令和5年度高教研理事会審議結果（報告）	メールにて送付
	6月1日	令和5年度高教研委員会審議	書面開催文書（メールにて送付）
	6月8日	令和5年度高教研部会幹事連絡会に係る資料の送付	幹事業務文書・書類（郵送）
	6月8日	令和5年度高教研委員会審議結果（報告）	メールにて送付
	7月3日	新潟情報教育研究会 設立記念講演会 後援申請回答の送付	メールにて回答
	7月20日	公益財団法人 新潟県教育公務員弘済会より250,000円の助成	
令和6年	9月15日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団へ「令和5年度新潟県民のための教育・文化活動」団体助成を申請	郵送により申請
	11月9日	「第71回北陸四県数学教育（新潟）大会」共催申請回答の送付	メールにて回答
	1月5日	年度末に係る部会事務処理に関して（依頼）	メールにて送付
	1月18日	「日本生活科・総合的学習教育学会第33回全国大会（新潟大会）」後援申請回答の送付	郵送にて回答
	2月13日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団より令和5年の「団体事業助成」承認の通知を受領	
	2月16日	公益財団法人 日本教育公務員弘済会新潟支部へ令和4年度「教育研究団体助成事業報告」の送付	郵送により報告
	2月下旬	『高教研年報』第63号の編集作業に着手	

（文責 県立新潟南高等学校 教頭 佐藤 俊）

編集後記

令和５年度の高教研の活動をまとめた「高教研年報第６３号」をお届けいたします。

令和２年１月に初めて国内における新型コロナウイルスの感染報告がなされてから４年が過ぎます。令和５年度は新型コロナウイルス感染症が５類に移行され、行動制限も解除され、コロナ以前の状況に戻りつつあります。

このような状況の中、今年度は、対面での研究・協議を実施していた部会が多くなりました。また、高教研の目的を遂行すべく、各部会の特色を踏まえ、対面とオンラインのハイブリッド開催を行うなど、多様な手法により研究・協議を実施していただきました。このことは各部の部長、副部長をはじめ関係の皆様の御尽力があったからと、改めて感謝申し上げます。

令和６年度からは、年次進行で実施されてきた新学習指導要領が全学年で実施され、大学入試共通テストでは、いよいよ共通必修科目「情報Ⅰ」が実施されます。高等学校においては、ICT機器の本格活用が始まり、個別最適化した学びと、生徒の多様な教育ニーズに対応した学びの提供が必要になっています。

本会の役割は、変化する教育課題に対応しながら、新たな指導内容や指導方法といった教育の専門分野について、会員相互の情報交換や研修をとおして研究するものです。したがって、この経験を踏まえての本会の研究活動や成果は、今後益々重要となるものと考えます。

この年報は全部会の活動を掲載しております。探究的な学習やICTの活用など、多様な取組が深まりを見せる中、自身の取組の参考としていただくとともに、この高教研各部会の取組を一人でも多くの方々にお伝えいただき、高教研会員の裾野をさらに広げていって欲しいと思います。なお、年報は新潟県高等学校教育研究会ホームページにも掲載いたしますので、どうぞ御活用ください。

末筆になりますが、今年度も一般財団法人新潟県教職員厚生財団様及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部様から研究費として御支援をいただき、各部会の研究の充実に充てさせていただいております。紙面を借りて感謝申し上げます。

今年度の高教研の運営に御尽力くださった関係の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、本県高等学校の更なる発展を祈念して編集後記といたします。

